The Friendship Force of Saitama

30周年記念誌

friendship force
SAITAMA

目　　次

FF 埼玉クラブ会長挨拶		三好紀子	2
30 周年記念事業実行委員会委員長挨拶		大熊幸雄	3
FFI 会長祝辞		Jeremi Snook	4
30 周年に寄せて		第三代会長　沼　純子 第四代会長　原田　史	5
30 年間の渡航・受入れ一覧表			6
渡航・受入れの記録（2013 年～2019 年）			9
埼玉クラブ主催日本大会（2016 年）			19
埼玉クラブのイベント一覧表（2013年～2022年）			20
埼玉クラブのおすすめスポット	川越	稲垣朋彦	22
	日光	百名良子	23
	東京	長屋正子	24
2020 年からの取り組み			25
埼玉クラブ主催国内交流　日光散策			26
それぞれの Memories			27
歴代会長一覧			35
編集後記			36

30 年の成熟をもってパンデミックと戦争の時代を生きる

FF 埼玉クラブ会長　三好　紀子

華やかな20周年の祝賀のあと、埼玉クラブは沼純子元会長と原田史前会長と共に順調に歴史を刻んできました。私が会長職を引き継いだ 2021 年は、コロナパンデミックの中、FFI が矢継ぎ早に組織・myFF・ロゴ・モットー等の変革を打ち出し、ZOOM による会議で世界のクラブ代表に説明し、異論を受け止め、FFI の新しい姿を決定していくときでした。FFJ はこの変革を日本のクラブが受けとめられるよう、ZOOM 学習会を複数回開いてくれました。FF という組織に信頼感を抱きました。かけがえのない歴史をもつ埼玉クラブ、意欲にあふれるクラブ員と共に、厳しい時期にあっても歩みを進めたいと思いました。

この変化の中、埼玉クラブの挑戦は,会報『FRIENDS』 に加え、情報が迅速に伝わるようにと『FF埼玉かわら版』発行から始まりました。ZOOMを駆使したイベントは、コロナ前には思いもしなかった楽しみを与えてくれました。渡航に代わるものとしてFFJが提唱する国内交流計画に賛同し、「日光世界遺産の旅」を全国に提供できました。渡航先であったウクライナ　キーウ理解を進めるLINEでの情報共有は2022年9月現在も活発です。

30 周年記念事業の取り組み方を見ても、ZOOM で作業確認をし、担当者が個別にしごとを進める場合と、一同が顔を合わせて話し合いによる合意形成を大事にする場面がうまく組み合わされていました。コロナ禍にあっても対面する価値を大事にする埼玉クラブらしい温かな時間が流れています。

2022年11月に創立30周年を迎える埼玉クラブは、会則に個人情報条項を入れ、広報部を設置しました。記念の集いの席に、『30周年記念誌』と『改訂版Handbook』が届きます。『祝う集いの開催』を含む三事業の取り組みに、 埼玉クラブ創立時の会員の熱意を見る思いがします。そして次世代の成熟した姿がここにあると実感しています。個々人が継承してきた経験と実力は埼玉クラブ会員が共有する宝物です。

2022年2月24日突然ロシアがウクライナに軍事侵攻をしました。キーウクラブとの交流を夢見てきた埼玉クラブ員にとって、看過できない戦争の勃発です。この事態を受け止めた会員から、「必要とする方がいれば、ホームステイを引き受けます」と意志表示があり、埼玉クラブとして長期にわたるであろう避難民支援の一つとして、埼玉県などに「孤立や言葉の不便が生じた時の助け合い」として埼玉クラブができる事を提案しました。

With Corona の時期を生き抜いた知見をもって健全な日常生活を取り戻しましょう。渡航と受け入れをコロナ以前にもまして心を込めて実現しましょう。ウクライナの美しい町と建築物の破壊、人道上許されない殺戮がまかり通る現代にあって、苦難の中で生きる人々を思うと共に、ロシアにも友がいる FF の強みを生かしましょう。平和な日常生活を取り戻すことが、この不条理を不条理だと主張する力になることを確信しています。

a world of friends is a world of peace

FF 初期のモットーをいま、生かす時です。Friendship Force が掲げる価値に向かって、世界のそして日本の会員と歩みをともにしましょう！

フレンドシップフォース埼玉創立３０周年に寄せて

創立30周年記念事業実行委員会
委員長　大熊　幸雄

フレンドシップフォース埼玉は2022年11月に創立30周年を迎えました。そこで、2021年3月頃から理事会を中心に記念事業の検討を始めました。2019年暮れから拡大してきた COVID-19 感染の影響により活動が制約される中、①ハンドブックの見直し②記念誌（電子版も検討）の発行③11月の記念式典・懇親会及び受入の際、訪れたい場所等を取りまとめた埼玉クラブのしおり・リーフレットの作成が提案されました。

この間、クラブの交流については、Greater Cincinnati Club の受け入れは2023年3月に延期されました。2月24日、ロシアによる国際法違反のウクライナ侵攻もあり、2022年8月に予定されていた Halle Saale (Germany)への渡航は断念となり、Greater Kiev (Ukraine) への渡航は不可能となりました。このような中で、5月25日には埼玉クラブで初めての国内交流イベント（日光方面）を開催しております。

さて、創立30周年実行委員会ですが、3月20日に初会合がオンラインにて開催され17名が参加しました。実行委員会では、大熊が委員長に、原田史さんがハンドブックグループ・リーダーに、浜敬子さんが記念誌グループ・リーダーに、新井ミキエさんが祝う集いのグループ・リーダーに決定し、ブレークアウト・ルームに分かれ話し合いが持たれました。

会員が一堂に集う「祝う集い」につきましては、会場、企画を十分に練りまして、11月5日の土曜日、埼玉会館において開催することとなりました。コロナ禍にあって、20周年記念式典のときのような来賓をお招きする大きな規模ではなく、会員と旧会員を中心とした集いになっております。もちろん、恒例のオークション（今回はご時世によりサイレントですが）やフォトムービー、エンターテイメントもあります。皆様に楽しんでいただければ幸いです。

さて、次なる40周年に向けて、皆さんは目標をお持ちでしょうか。まず、フレンドシップフォースのミッションや誓いを再確認するのも良いでしょう。フレンドシップフォースには、活動を通じて学ぶべきものが沢山あると思います。まず、コミュニケーション・スキル（バーバル、電子メール、Zoom や英会話等々）の習得があげられます。また、世の中には、多くのプロパガンダやフェイクニュースが満ちあふれています。言葉を鵜呑みに信じるのではなく、行動を追跡、注視して判断する、そう言う訓練も必要かと思います。世界は多様な地域、歴史、文化、習慣があります。先入観を持たず違いを認め理解することが大切だと思います。

フレンドシップフォースの言葉 「Make A Difference!」のように。

結びになりますが、フレンドシップフォース埼玉創立30周年記念事業の実施に当たり議論を重ね献身いただいた実行委員の皆様、オークションに出品いただいた皆様に、こころより感謝申し上げます。

FFI　Jeremi Snook 会長　祝辞

Dear Friendship Force of Saitama,

The Friendship Force started with a bold and yet simple idea that a world of friends can lead to a world of peace. Over 40 years ago it was hard to imagine that peace could ever be possible between some nations and yet, through the power of perseverance of citizens like you, new understanding and peace was achieved.

The Friendship Force of Saitama has played a significant role in bringing the world closer together. Like ripples from a stone in the water, your connections with friends in other countries through your participation in the Friendship Force has helped bring new understanding and new appreciation for the diversity of people around the world. This has helped to eradicate hate, dispel stereotypes and prevent the roots of discrimination from taking hold. Simply put, you have helped make possible a world of friends in a divided world.

On behalf of the International Board of Directors, our globally positioned staff and myself, it is my honor to congratulate you on 30 years of building friends globally and fostering peace amongst diverse cultures.

In friendship and peace,

Jeremi Snook
CEO & President

フレンドシップフォースは、友人がいる世界が平和な世界につながるという大胆なしかしシンプルな理念のもとにスタートしました。40年以上前には、平和が実現するとは想像すらできなかった国々もありましたが、あなた方のような市民の忍耐力をもって、新しい理解と平和が達成できたのでした。

FF 埼玉は世界の絆をより強めるという重要な役割を果たしてきました。水に投じた石がさざ波をたてるように、フレンドシップフォースに参加し培ってきた他国の友人との結びつきが、世界の多様な人々に対する新たな理解と、評価を生み出すのに役立っています。こうして憎しみを根絶し、ステレオタイプな見方を排除し、差別の根が張ることを防いできました。シンプルに言えば、あなたがたは、分断された世界を友人のいる世界に変えてきたのです。

本部理事会と、私を含む世界中に配置されているスタッフを代表し、世界に友を作り、多様な文化の間に平和を育んでこられた埼玉クラブの30年にわたる営みをお祝いすることができて大変光栄に思います。

友情と平和の名において
CEO＆会長　ジェレミ　スヌーク

30 周年に寄せて

FF と出会って　　FF 埼玉第三代会長　沼 純 子

私が FF に入会したのは 20 年前。当時 FF の会員で、茶道の先生でもあった方に「沼さんにピッタリ」と誘われたからです。 それからは渡航・受入れなどできる限り参加して FF の楽しさを味わいました。

私の国際交流はまず近所の子供達と始めたラボ・パーティー（現在のラボ言語研究所）です。主に英語を用いた歌やゲーム、劇活動。アメリカの4H クラブとのホームステイ交換で中学生の娘達がお互いの家で一か月暮らしたアイオワの家族とは 40 年後の今も交流が続いています。

夫の転勤のためラボから離れ、その後埼玉へ戻って以来 15 年間高校に勤めました。仏教教育と同時に国際教育も熱心な学校で、夏期語学研修、韓国やオーストラリアの姉妹校交流、海外からの留学生受け入れなど、貴重な経験をしました。

高校を退職し、一緒に暮らしていた母が亡くなって数年経った時、FF と出会ったのです。
外国の人々との話し合いを通じて、生活や考え方、夫婦や親子関係に触れ、文化の違いと共通点も学びました。多くのなつかしい思い出の中でも、ホームステイ先で一緒に森を散歩したり、ベンチに静かに腰掛けつつ心安らぐひと時をすごしたホスト達のことは今も忘れられません。

FF の良さは海外交流だけではありません。埼玉クラブや他クラブ、埼玉大学の交換留学生など、素晴らしい人たちに沢山出会いました。私自身平凡な人間で、自分にないものを持つ人に惹かれます。個性豊かな人、優れた才能や特技のある人、心根のやさしい人、 FF は人材の宝庫です。そうした様々な人々と知り合うことによって自分が少しずつ成長してきたように思います。友が、出会いが、私の人生に彩りを添えてくれたのです。A world of friends is a world of excitement.

私にとっての FF は　　FF 埼玉第四代会長　原田　史

私がFF埼玉に入会してから13年が過ぎました。30周年を迎える埼玉クラブの歴史の半分にも満たない年数です。FFのことは随分前から新聞などで知っていましたし、興味がありましたが、とても我が家に外国のお客様をお迎えすることは出来ないと初めから諦めていました。縁あって、会長の沼さんの面接を受けることになったのは大宮郊外の日帰り温泉。「今度、NZに行くのよ、入会して一緒に行きませんか」とお誘い頂き、素晴らしいと思うが、我が家にはお客様をお迎えできないのでと申したら、「それぞれの人が出来ることをすればいいんですよ」と言って頂き、長年の夢を叶えられるチャンスかもしれないと決心いたしました。

その場で民謡踊りグループが温泉客に声をかけると、私の面接が終わった FF 埼玉の会長、事務局長、理事が踊りの輪に加わり、楽しそうに踊られました。私はあっけにとられ、でもこのグループに加われば、自分もこういう風に積極的に行動する人たちの仲間に変わっていけるのではないかと感じたのです。

残念ながら、東京音頭も秩父音頭もマツケンサンバも上手にはなれませんでしたが、子どもの頃から盆踊りを経験したことのなかった者が、ともかくやってみようという気持ちになれたのは大変化です。

それにも増して大きな変化をもたらしてくれたのは渡航と受け入れの経験です。雄大な景観も古いお城もその他諸々の事物に触れ得たのも忘れがたい思い出ですが、やはり人々との出会いが一番の宝物です。人は文化を体現していて、NZ の田舎町で英国庶民の英語がそのまま残っていて驚いたり、ウエールズとアメリカに拠点を持つ女性に“should have・・・”等と子育てを悔いてはいけないと戒められたり。外国の人と文化というものに少しでも目を開かされた尊い 13 年間でした。

30年間の渡航・受入　一覧

年度	渡　航	受　入	その他
1992			1992年11月28日　設立総会 初代会長　：　佐藤　ゆきえ
1993	Puget Sound/Olympia, WA,　USA 9月27日～10月12日　　26名 ED　佐藤　ゆきえ 参加費　￥170,000　返金￥10,000	Cheyenne, WY,　USA 8月17日～24日 先方クラブの都合により中止	
1994	Kiel/Cottbus,　Germany　　23名 6月10日～25日　　ED　佐藤　ゆきえ 参加費　￥260,000　返金￥30,000	Madison, WI,　USA　　26名 11月4日～11月11日　　ED　島田　信子	
1995	Sunshine Coast/Tamworth,　Australia 3月9日～22日　　22名 ED　延島　晶子 参加費　￥235,000	Brisbane,　Australia　　25名 5月24日～31日　　ED　三戸　静香 Manawatu, New Zealand 先方クラブの都合により中止	
1996	Madison, WI,　USA 2週目　ナイアガラ滝・カナデイアンロッキー観光　　27名 6月12日～20日　　ED　須藤　淑子 参加費　￥163,000	Sydney,　Australia　　25名 5月8日～15日　　ED　中江　美三 Denver, CO,　USA　　24名 9月28日～10月4日　　ED　大岩　典子	•Volunteer of The Year 1997 International 受賞　:佐藤　ゆきえ •ブリッジビルダーズ・エクスチェンジ Los Angeles　盆栽愛好家　22名 6月21日～28日　　ED　佐藤　ゆきえ •FF埼玉創立5周年記念祝賀会 12月6日
1997	Manchester/Bristol,　UK　　25名 9月19日～10月4日 ED　佐藤　ゆきえ 参加費　￥230,000　返金￥30,000	Kiel,　Germany　　15名 4月21日～28日　　ED　佐藤　ゆきえ	
1998	Arnhem, The Netherlands/ Flanders, Belgium　6月25日～7月9日 埼玉18名　札幌　7名 ED　小高　雅子 参加費　￥210,000	Santiago,　Chile　　20名 5月15日～22日　　ED　堀内　美紀子	Devon, UK　　31名 10月30日～11月3日 ED　佐藤　ゆきえ
1999	Accra,　Ghana　　19名 10月7日～16日　　ED　飯沼　和華子 参加費　￥295,000	Sunshine Coast,　Australia　　28名 3月11日～18日　　ED　嶋田　澄江 Cottbus,　Germany　　22名 7月31日～8月7日　　ED　佐藤　ゆきえ	埼玉県知事より感謝状
2000	Sunshine Coast,　Australia/ Hamilton,　New Zealand　　38名 ED　金子　恒夫 参加費　￥175,000　返金￥6,500	Flanders,　Belgium　　14名 7月14日～22日　　ED　柳　道子	第14回日本大会　　参加160名 5月20日～21日 於　浦和ワシントンホテル
2001	Kern County, CA /Kauai, HI USA 10月9日～24日　　ED　佐藤　ゆきえ 9月11日　米国テロ事件のため 渡航中止	Winston Salem, NC,　USA　12名 6月2日～8日　　ED　佐藤　ゆきえ	
2002	Lubeck　/Bockhorn, Germany　23名 6月7日～24日　　ED　佐藤　ゆきえ 参加費　￥190,000返金￥9,350	Accra,　Ghana　　19名 9月12日～19日　　ED　飯沼　和華子 キャンセル	•創立10周年記念式典・祝賀会 :10月14日 •10周年記念植樹　:10月17日 さいたま市　市民の森
2003	Kern County, CA /Kauai, HI, USA 10月4日～19日　　21名 ED　堀内　美紀子 参加費　￥180,000	Minsk,　Belarus　　18名 4月2日～9日　　ED　綿部　恵美子	第二代会長　：　堀内　美紀子

年度	渡 航	受 入	その他
2004	Salisbury, Australia 19名 3月21日～30日 ED 沼 純子 参加費 ￥157,000 Minsk, Belarus(キャンセル) 7月1日～10日 ED 佐藤 ゆきえ	Seoul, Korea 21名 5月31日～6月6日 ED 細矢 康子 Curitiba, Brazil 30名 8月30日～9月6日 ED 堀内 美紀子	
2005	Hertfordshire/Cleveland, UK 20名 6月7日～21日 ED 堀内 美紀子 参加費 ￥174,000(一週間)返金￥26,735 ￥200,000(二週間)返金￥23,779	Riga, Latvia 16名 5月11日～18日 ED 岸田 節子 Kauai, Hawaii, USA 19名 10月1日～8日 ED 野澤 明子	
2006	Huntsville, AL/Louisville, KY, USA 9月10日～25日 18名 ED 稲垣 洋子 参加費 ￥197,938	Salisbury, Australia 13名 4月3日～10日 ED 沼 純子	
2007	Fraser Valley, Canada 20名 6月17日～6月25日 ED 沼 純子 参加費 ￥159,952 Seoul, Korea 16名 10月5日～10日 ED 佐藤 ゆきえ 参加費 ￥92,395	Kern County, CA, USA 22名 3月28日～4月4日 ED 児島 英子 San Antonio, Texas USA 16名 11月8日～11月15日 ED 堀内 美紀子	第三代会長 ： 沼 純子
2008	Riga, Latvia 14名 7月4日～12日 ED 岡田 一夫 参加費 ￥260,000	Huntsville, AL, US 21名 4月1日～7日 ED 稲垣 洋子	
2009	Horowhenua & Wellington, NZ 20名 10月30日～11月14日 ED 新井 ミキエ 参加費 ￥204,000(一週間) ￥221,800(二週間)	Taichung, Taiwan 19名 3月24日～30日 ED 池田 完之	
2010	Mid-Willamette Valley, OR /Dubuque, IA, USA 17名 10月1日～15日 ED 池田 完之 参加費 ￥219,050 返金￥6,600	Penticton-Okanagan, Canada 18名 4月1日～8日 ED 岸田 正二郎	Oklahoma club のオランダ渡航に9名参加。9月7日～14日 Netherland East Club 訪問。
2011	Filobobos, Mexico 3月11日～23日 ED 五十嵐 佑子 (3.11 災害で渡航中止)	Bristol, UK 25名 4月16日～23日 ED 西村 純枝 (3.11災害で中止) Kapiti Coast, NZ 21名 5月26日～6月2日 ED 沼 純子 (3.11災害で中止) Mid-Willamette Valley, OR, USA 14名 10月27日～31日Stop Over ED 西村 純枝	・3.11 東日本大震災で、予定していた渡航と受入は中止。 ・ドイツ ハンブルク世界大会(8月26日～30日)に21名参加。ロードランナー賞受賞。 ・タイ チェンマイ Asia Pacific Festival (11月7日～17日) に 11 名参加。
2012	Leicestershire, UK 20名 5月23日～30日 Leuven, Belgium 18名 6月1日～8日 ED 稲垣 洋子 参加費 ￥192,300(一週間) ￥252,000(二週間)	Shelby, NC, USA 16名 3月30日～4月6日 ED 高橋 京子 Chiang Mai & Bangkok, Thailand 9 名 Stopover 4月10日～12日 Mt Barker and Salisbury, Australia 20名 9月14日～21日 ED 新井 ミキエ	・広島世界大会10月31日～11月2日 ・大会前後のホームステイ ベルギー:2名、USA:4名 タイ:6名 ・創立20周年記念式典・祝賀会 11月6日

年度	渡 航	受 入	その他
2013	Melbourne, Australia　17名 3月12日～19 日 Murray Bridge, Australia 13名 3月19日～26日 ED 原田 史	Bristol, UK 25名 4月7日～14日　ED 西村 純枝 Kapiti Coast & other 5Clubs,NZ 19名 9月29日～10月6日 ED 羽島継男	第四代会長 ： 原田 史 第 25 回日本大会 鳥取 4 名参加 世界大会 ニューオーリンズ 6 名参加
2014	Winnipeg, Canada & Long Island ,USA　20名 9月3日～16日　ED 西村介延	Budapest, Hungary　14名 3月29日～4月5日 ED 五十嵐佑子 Leuven, Belgium　10名 11月17日～24日 ED 堀切 京子	第 26 回日本大会 札幌 8 名参加
2015	Bergen, Norway 19名 6月 4 日～11日 Solothurn, Switzerland: Stop over 14名 6月11日～14日 ED 大熊幸雄	Toronto , Canada　20名 4月3日～10日 ED 西村純枝	FF関東ブロック会議開催 7 月 25 日 於:北浦和カルタスホール 第 27 回日本大会 岐阜 18 名参加 世界大会 ﾊﾞﾝｸｰﾊﾞｰ 3 名参加
2016	Taichung , Taiwan　17名 3月3日～9日 ED 加藤明世	Noumea, New Caledonia　18名 6月19日～26日　ED 高堂 綾	第 28 回 FF 日本大会開催 11 月 12 日 於:ホテル ブリランテ武蔵野 世界大会 マラケシュ 2 名参加
2017	Varel & Lubeck, Germany 15 名 9 月 3 日～20 日 AC 外山哲代 参加費 約 32 万円	Newcastle, Australia 20 名 4 月 15 日～22日　ED 石井 友美	第 29 回日本大会 郡山 18 名参加 世界大会 マンチェスター 1 名参加
2018	Tront, Canada 14 名 6 月 11 日～18 日 Greater Cincinnati, USA 16 名 6 月 19 日～26 日 参加費 約 33 万円　AC 稲垣洋子 ニュージーランド英語研修 Kapiti Coast, New Zealand 15 名 8 月 19 日～25 日 Wanganui, New Zealand 10 名 8 月 25 日～30 日 参加費 約 18 万円 AC 沼 純子	Casterton, Australia　13名 3月22日～28日 HC 小林 恵美子 Whangarei, New Zealand 19名 11月10日～17日 HC 西村 純枝	第 30 回日本大会 愛媛 16 名参加
2019	Noumea, New Caledonia 15 名 9 月 17 日～24 日 AC 浜 敬子・堀切 京子 参加費 約 15 万円	Varel, Germany　14 名 3 月 25 日～4 月 1 日 HC 外山 哲代 Leicestershire, UK　16 名 11 月 6 日～13 日 HC 原田 史	FF関東ブロック会議開催 7 月 7 日 於:With You さいたま 第 31 回日本大会 静岡 14 名参加 第41回ボルダー世界大会 2 名参加
2020	Greater Kiev, Ukraine ※新型コロナにより中止	Greater Cincinnati , USA ※新型コロナにより中止 Central Iowa, USA ※新型コロナにより中止	
2021			第五代会長 ： 三好 紀子
2022	Halle/Saale, Germany ※世界情勢により中止		創立30周年を祝う集い 11月 5 日 於:埼玉会館 第 32 回日本大会 新潟 14 名参加

注 ： FFI は 2017 年 5 月以降 「Exchange」を「Journey」に変更するとの発表があり、
ED（Exchange Director）を渡航は AC（Ambassador Coordinator）・受入れは HC（Host Coordinator）と呼称を変更しました。

2013 年～2019 年　渡航・受入れの記録

Australia　Melbourne Club＆Murray Bridge Club 渡航

2013年3月12日～25日　　ED 原田　史

メルボルンクラブの歓迎会

初めてのED（AC）体験。豪州への渡航も初、大都会メルボルンと人口19,000人の小都市マレーブリッジとの変化に富んだ組み合わせでした。

あの頃のオーストラリア・メルボルンは中国の影響が強く、中国人の学生も多く、住宅地で留守がちな中国人の家が住民の不安・不満の種のようでした。ホストはノーラ、イギリスで働いていた時に出会った男性と結婚して豪州に帰国。彼はイートン、オクスフォード出身でしたが、仕事には役に立たなかったと苦笑していました。未亡人で1人暮らし、お隣の仲好しと組んで、2人を受け入れてくれて、楽しいステイでした。ノーラの長男はトレーダーで、日本に5～6年いたとか、一夜、新妻と訪れて、東京の思い出や秘境の宿のこと等珍しい、リッチな体験談を聞かせてくれました。ノーラも5回ほど訪日した由。

マレーブリッジクラブの町長と

8時間の少し豪華な列車旅の終わりにマレーブリッジに着くと、プラットフォームに迎えに出てくれての歓迎。のどかさを実感。事前にホストフィーの送金をしたくても信用金庫（？）のswift code もわからず、結局、持参するように言われて、戸惑いながらそうしたのも当然だったのかもしれません。

平屋の多い、静かな町、雨が極端に少ないそうで、どこの家も特大の雨水タンクを1個か2個備えているのが、異色です。川船のクルーズやアデレードへの遠出を楽しみ、アボリジニーの部落にも案内されましたが、村の代表者との交渉の結果は見学不可となり、少し残念でした。コアラを抱いての記念写真、町の公園でのユーカリ植樹など、「さすがオーストラリア」を満喫する旅でした。

UK Bristol Club　　受入れ　2013年4月7日～14日　　ED 西村 純枝

アンバサダー25名（男性8、女性17）Bristol ED Reg率いる一行は埼玉クラブ受入れマックスの数。その後のNorway渡航に繋がることになるカップルも含まれていた。東日本大震災で2年間約束が果たせないままだったので、待ちに待ち、ホッとした交流となった。ほとんどが7泊を受け可能だったのは、ホストも若かったからか。ED西村、堀切サブEDが準備会を計画し、多くの会員が時間をやりくりし係わり、力をつくし、実りある濃い受け入れをシェアしあった。“のぞみ”にて東京駅（3名が岡田、池田宅にステイ）から大宮で22名ホスト宅へ。

木曽路にて岩崎リーダーのもと日本料理を紹介するウェルカムパーティーにもなり、アンバサダーは日本料理を楽しそうに恐る恐る？食べていた。催事統括沼リーダーの元に着付け、生け花、お習字、折り紙での日本紹介。25名の着物姿は圧巻だった。翌日には盆栽美術館を高橋、郡山、新井ミ、斉藤が計画実行。バスツアーは、天候に恵まれた箱根の地、大熊リーダーのもと更に長寿をと（笑）大涌谷の黒卵を頬張る光景も懐かしい。 フリーデイには、これも大熊企画のカラオケや、鉄道博物館（羽島企画で説明員までこなす）、岩崎主催体操教室や日帰り温泉も嬉し恥ずかしと参加。あっという間の小林リーダーのフェアウェルパーティー。会員が腕を振るいゲストより我先にと？美味しすぎ。特に牧野内南瓜プリンは狙い撃ち。我が家にステイのReg（ED）、当初のEnglish Gentlemanのお澄ましはどこへやら、ハグと涙の結果オーライ。初めてのED同士、その後も交流は、続いている。

ブリストルクラブの紳士・淑女のみなさん

NZ Kapiti Coast Club 受入れ 2013年9月29日～10月6日 SUB.ED 堀切 京子

東日本大震災のため延期となっていたニュージーランドのカピティコーストクラブの19名のアンバサダーの方々が札幌クラブでのホームステイを終えて9月29日、新幹線でやってきた。

2007年にFF埼玉に入会した私は、羽島継雄EDと一緒にSUB. EDという大役を引き受けて緊張感で一杯だった。あっと言う間に最終日のフェアウェルパーティーを迎えた。和やかな歓談、両クラブフェアウェルパーティー花笠音頭」「まつけんサンバ」などを通して、深い絆を確認できた交換であった。

滞在中、アンバサダーの1人がベッドの上で片付け中にバランスを崩し人工股関節を脱臼、身動きが出来なくなり救急車で運ばれるというハプニングがあったことも忘れられない思い出である。

幸いベテランの前会長の沼さんがホームホストだったこともあって迅速に対応でき骨折などの異常がなくその日のうちに帰宅することが出来た。

今回の事故は、私達が渡航する際にも、持病などがあれば薬や病気について英文の文書を用意すること、万一に備えて相応の旅行保険をかけることが大切だと改めて感じ教訓となった。

アンバサダーの書道に装丁

あっという間の 1 週間だったが私たちは名残惜しくも一行を次なる地へと送り出すことが出来た。

2014 年

Hungary Budapest Club 受入れ 2014年3月29日～4月5日 SUB.ED 加藤 明世

ハンガリー料理教室

受け入れ準備の段階では、FF精神を忘れ商業ベースの観光中心の交換になるのかなと危惧したが、やってきたアンバサダーたちは共有できる常識をもった方たちだった。構成は以前から活動しているメンバーは 4 名だけ、他はこの渡航のために急きょ会員になった 10 名の方々だ。

ハンガリーデイでは、Thanks Meal パプリカ―シュ・チルケ(パプリカチキン)の料理教室を持った。ハンガリーからパプリカとヌードルは持参する、Hungarian Wine 購入依頼、レシピは前もってメールで連絡があった。

受入後の感想によれば、ウェルカムパーティ:司会の岩﨑さんと ED Eva がハンガリー語で進行。いつもながら着物着つけは女性は勿論、男性陣も少年のようにcomfortable と大喜びだった。

日光バスツアー: ブダペストクラブのたっての希望で日光へ。竜頭の滝、中禅寺湖、華厳の滝、日光東照宮、輪王寺と欲張った。個人で自由に動きたいとの思いが強い方をその気持ちに寄り添いながら誘導するのは大変だった。初めてのホームホスト: IT 関係の仕事をしているアンバサダー自身が制作したハンガリー紹介のプロモーションビデオ、自身が設計したカラフルな豪邸写真など見せてくれた。最終日、初めてお箸を使い、みんなを大いに喜ばせた。気配りのできる紳士的な方だった。フェアウェルパーティー: バラエティーに富んだ料理・デザートにアンバサダーたちはとても喜んだ。花笠音頭では全員大盛りあがり。心配は杞憂に終わり、個人的には非常に良い方ばかりで一転大成功の交換だった。

花笠音頭

尚、ED 五十嵐さんはその後体調を崩され退会された。

Canada Winnipeg Club & USA Long Island Club 渡航

2014年9月3日～16日　　ED 西村 介延

Keenan 湖畔での BBQ Party

自然がいっぱいのCanadaと世界有数の大都会 New York の二か所への渡航とのことで、期待に満ちて出発した。特に私は初めてのAC(当時はEDとの呼称だった)でもあり、最初は緊張気味であったが、Winnipegの自然のおおらかさに触れるにつれ楽しめるようになった。Manitoba Museum, Assiniboine Park, Vermon Nature Trail など盛りだくさんのプログラムで歓待してもらったが、その中でもKeenan湖畔でのBBQパーティーが一番印象にのこっている。そこで、大熊さんやパーティー参加者と'70sの懐かしい曲を歌ったことが思い出される(写真)

翌週は米国 Long Island Club への訪問であった。そこは NY へ電車でほぼ 1 時間程度の近さであり、都心へも二回案内してもらった。NY では、Manhattan, Staten Island Ferry, Statue of Liberty, Wall Street, Broadway show などを回り、特に Broadway では'CHICAGO'のショーも堪能できた。また Long Island では、Light house や海岸での Picnic を楽しめた。我々夫婦のホストは、Ivan & Sheila さんであったが、リビングルームには、海岸に立つ老人と少年が海を眺めている絵画が掛かっており、その絵の謂れを説明してくれた。祖父が貧しかった Ireland から豊かなアメリカに向かって佇んでいる様、場面を表している絵であり、Ivan さんが Bronx で貧しい中でがんばってきた原動力となっていると語ってくれた。

私には、Winnipeg Club と Long Island への渡航は貴重な思い出となっている。

Long Island Club にて

Belgium Leuven Club　受入れ 2014年 11月17日～24日　ED 堀切 京子

埼玉クラブ恒例の花笠音頭

初めてのED、緊張感で一杯の 1 週間の受入だった。

2年前の渡航で私達埼玉クラブはルーバンクラブを訪問していたので、メンバーの方々はかなりの日本通ということを知っていた。私達は本格的な日本文化を紹介したいとプログラムに気合を入れて用意した。

ルーバンクラブのEDはヒロ彩霞さんという日本人で、1990年からベルギー滞在の画家として活動されている方だった。プログラムの中には、居酒屋体験もあり庶民的な日本文化を楽しんで頂けたのではないかと思う。ウェルカムパーティーでは村松江伊子さんのバラード風アレンジによる生演奏「スキヤキソング」の演奏は皆すぐに気が付き本当に楽しい着物ショーだった。またヒロさんの友人であり、ルーバンクラブのメンバーでもある大正琴の名手、 井上さん、柴田さんによる演奏と歌、そして埼玉クラブは日本文化伝統の演武「古武道」「居合道」を用意した。日本文化の格調の高さそして素晴らしい演技に拍手喝采だった。

この間、交換を通じて時には文化の違いによる多少の摩擦もあったが、これも互いを知る友好の絆にさえなり得るということが分かった。草の根交流の良さが充分発揮できたとも思った。私にとって初めてのED経験であったが、皆様のご協力のお陰で楽しい時を共有出来たことに心から感謝している。

演武 古武道

2015 年

Canada Toronto Club 受入れ 2015年4月3日～10日 ED 西村 純枝

7泊8日受入れ アンバサダー 20名（男性6女性14）Toronto（ED Lloyd）カナダの他5クラブからの参加希望もあり20名という希望数を受け入れた。池田EDスタートだったが都合により西村がバトンタッチということになり、トロントとのきめ細かなやり取りの池田EDの後を無事繋げて行けるだろうかと心配した。加藤サブEDの力を借りて担当。ウェルカムパーティーは柴田リーダーのもと北浦和カルタスホールで日本文化紹介・田中お琴も好評。羽島中心で着物の布で作ったおみやげ手提げを飾り、着付け（郡山）、生け花（新井ミ）、習字（牧野内、中林）写真（寒川、西村）など決して広いとは言えない会場に所狭しと男性着物も人数分揃え全員が着つけての集合写真。担当者は手際よく体験をしてもらおうと大わらわ。アンバサダーは忙しいタレントのよう。大熊リーダーのもと日光バスツアーをおなじみの瑞穂観光菱沼さん対応が安心。フリーデイは2日あるが、原田リーダー、サブ内山と各担当が、笛木醤油工場見学と小江戸川越めぐり、盆栽美術館見学と岩槻の東玉総本店見学など選べるお楽しみの日となった。フェアウェルパーティーは小林リーダー、きめ細やかな対応の高堂のもと、日本のおもてなし感のある木曽路にて喜ばれた。その後さいたま市宇宙劇場にてダンス、こちらも空手などお互いのパフォーマンス、書道、写真の贈呈、おきまりのマツケンサンバ、FFの歌にてお開き。このグループはその後3つに分かれてのそれぞれの帰路についた。

手作り袋物 贈呈

ベルゲン・クラブ

Norway Bergen Club & Soledurn Club 渡航 2015年6月4日～14日 ED 大熊 幸雄

国で唯一のクラブである、ノルウェーのベルゲン・クラブ、スイスのソロトゥルン・クラブへの渡航は、大変人気があり応募者が殺到した。議論を重ね、ついには、阿弥陀クジにより渡航者を決定した。ベルゲン・クラブは会員数が少ないのでホームスティの余裕がない。ホテル泊を提案、粘って交渉した結果、19名全員のホームスティが実現した。2015年6月4日午後7時過ぎベルゲン空港に到着。世界遺産ベルゲンのハンザ博物館、フロム鉄道、フィヨルドのクルージングツアー、ロルフ邸での交換会など心のこもったおもてなし。

ヘンリック・ママや運転手兼のロアルド会長の「ヨーヨーヨーヨー」が耳に残り、思い出深かった。

ソロトゥルン・クラブは、我々14 名を 4 日間のストップ・オーバーで受け入れてくれた。6 月 11 日チューリッヒに空港に到着。ソロトゥルンやベルンへの移動は効率的で正確なスイス鉄道を利用。首都ベルンの旧市街、ソロトゥルンの大聖堂とマルクト広場での市場、峡谷のウォーキングなど丁寧できめ細かいプログラムに国民性を感じた。

ポスト交換として、12 名がインターラーケン、ユングフラウヨッホ、シヨン城、レマン湖クルーズ、ジュネーブなどでスイス観光を楽しみ、6 月 18 日、成田に無事帰国した。

ソロトゥルン・クラブ

2016 年

Taiwan Taichung Club　渡航　2016年3月3日～9日　ED 加藤　明世

カンフーガールズ春如さんらの演技

1945年終戦の年まで50年間、日本に統治されていた台湾。反日感情を心配していたが、日本のおかげで鉄道が敷かれ、教育がなされたと親日国だった。10代・20代の若い人たちにはK-POPや韓流の影響で残念ですが、韓国が一番人気だそうです。オードリー・タンさんですっかり有名になった台湾のIT。当時既にスマホを駆使し、ED王さんは埼玉メンバーとホストとのフリーデイの様子を台湾LINE?ビデオで時々確認していた。台中クラブホストメンバーには英語はダメだが日本語はOKという方もおられた。王さんもその一人だった。庶民的なレストランでも円卓の食事（お味はそれなり？）、Thanks Mealは美味しい台南料理店へ、そして個人的には料理上手な奥様の手料理など食に恵まれた。阿里山・日月潭・九族文化村などへ貸切バスで観光旅行を楽しんだ。前年NHKドキュメンタリー番組「カンフーガールズ」で紹介された武術学校を訪問。当時まだ中学生だったトップ選手春如さんを中心に練習風景や武術に対する思いを綴った番組でした。2～3組のホストファミリー毎にポトラック親睦会をした。その際Farwellでのパフォーマンスの練習をしたグループもあり、埼玉メンバーも原住民踊り、フラダンスに参加した。また埼玉クラブは、亡き石井友美さんの手作り楽譜を手に中国語「北国の春」を牧野内さんのハーモニカ伴奏で合唱。埼大台湾留学生長さん指導の下、猛練習をした甲斐があり好評だった。帰国後の交流も活発で、親族の結婚式に招待されたり、名古屋マラソンや東京マラソンに来日参加したホスト家族を応援に行ったり、ED王さん夫婦は渡航翌月わが家へ宿泊など、日本が大好きな台湾の方たちとの再会を楽しんだ。

石井さん手作りの楽譜を手に
中国語「北国の春」を合唱

Nouvelle Caledonie　Noumea Club 受入れ 2016年6月19日～26日　ED 高堂　綾

合唱のプレゼント

Noumea Club でまず思い出すことは President でもあり ED として来日した、元気で活発な全身をピンクで固めたNicole です。彼女の活動力は驚くばかりです。当時の私は、2011年に入会してこの交換で初めて引き受けた ED で、一緒の仕事をした故石井さんの力を借りて、あのパワフルレディーの Club の方々をお迎えいたしました。森村桂が1969年に角川文庫から「天国に一番近い島」に書かれている島からの方々のせいか準備段階のメールの交換もゆっくりされ、悩まされましたが、南洋の穏やかな風が吹き始めたのを感じました。交換活動は、東京はとバスツアー、日光ツアー、都内の能の鑑賞等沢山のプログラムを盛り込んで、すっかりNicole ペースでした。Free day の時間が取れなかった反省点もありましたが、今、思いますと誰もが笑顔で活力が漲っていたように思います。Noumea Club の方々は、ほとんどの方がフランス人で遠い故国から離れ、海外領地の世界遺産にも登録されているサンゴ礁の青い海と自然豊かな緑の山々に恵まれ、若者のように色々なことに謳歌し、季節の悪い時は故国フランスに帰国して1年を優雅にお過ごしの様です。同じようにと望むわけにはいきませんが、彼らの人生の過ごし方には学ぶものがありました。

コロナ禍で滅入る気持ちを一掃して、当時の笑顔を取り戻しましょう。また平和な世界になり落ち着いた時には、笑顔で行動できますよう、皆様体を鍛えて下さい。

居酒屋で

2017年

Australia Newcastle Club　受入れ 2017年4月15日～22日　SUB.ED 増田 信枝

今は亡き石井友美さんがED、私はSUB.EDでした。名ばかりのSUB.EDは何も思い出せず、いつも自然体でさり気ない心配りを忘れない石井さんの、優しい笑顔ばかりが浮かんできます。そこで、受入れを振り返って綴られた石井さんの文を引用させていただくことにしました。『“Good-bye”アンバサダーを乗せたリムジンバスを見送った。（全員無事帰られた！）大きな荷物を下ろしたようなそんな感じだった。ホームホスト５回目になる今回はいつもの何倍も緊張した１週間だった。今までは全部お膳立てが出来ているところに参加していた。今回はEDとして準備段階から最後のお見送りまで長期に渡って関わった。その中で埼玉会員の方々がそれぞれ得意な分野で力を発揮し、それが組織化し１つに集結していく過程を直接目にした。これは今までにない新鮮な驚きであり、いい経験をさせていただいたと思う。皆様お世話様でした。EDは大変だったけど得るものも多かった。受入れ前、EDのJanさんとはメール交換を通して楽しい時間を共有できた。（中略）最初に会った時、仲の良い友達に久しぶりに出会ったような気がした。実際、我が家にホームステイした１週間は、自分の家にいるみたいに気兼ねなく過ごしてくれたのが、何よりうれしかった。夜は焼き鳥やリクエストのパンケーキwithキャベツ、お好み焼き等を肴に“カンパーイ”と酒パーティを楽しんだ。（中略）楽しい非日常の１週間ではあったが、帰った後に訪れた日常生活のなんと愛しいことよ！正直な感想である。』

石井さんとアンバサダー

石井さん！ありがとうございました。

Germany Varel Club & Lübeck Club 渡航 2017年9月3日～20日　AC 外山 哲代

フォークダンスの正装ファーレルにて

FF埼玉はドイツ北部のファーレルクラブとリューベッククラブとの交流を行った。両クラブは北海やバルト海が近く、13世紀から近世にかけてのハンザ同盟時代の歴史や文化の名残を至るところで感じた。

ファーレルでは、ホームホストで HC の Gisela さんがギターやアコーディオンの名手であり、またフォークダンスのサークルにも参加されていたため、ドイツの生活の中での趣味を活かした楽しみ方を一緒に経験させて頂いた。

リューベックでは中世からの建造物が残る旧市街で、丁寧な説明に耳を傾けながら散策をして歴史を学び、昔の人々の宗教感と現代の人々のそれが時代と共に変化をしていることも学んだ。トラヴェミュンデへの日帰り旅行では、バルト海の澄んだ海や真っ青な空の美しさにも感動した。両クラブ共にお城の見学をした際には、 古くから北ドイツとロシアは相互に影響し合っていたことを実感し、海に囲まれ鎖国をしていた同時代の日本との違いにも改めて気づいた。また日本からのお土産を提案したところ、代わりにファーレルクラブでは、チェルノブイリの子供達を支援する団体に、リューベッククラブでは、女性の障害者を支援する団体に寄付をすることになった。

わずかな金額ではあるが社会に貢献し自分の意識も高まった。

ホルステン門の前で

この二つの交流はドイツの文化、歴史、生活を近くで見て実感することが多かった。また両クラブのメンバーとの食事会の度に、歓談を通して親睦を深めドイツ人と日本人の共通点も感じられ良い思い出になった。

2018年

Australia Casterton Club　受入れ　2018年3月22日～28日　　HC 小林 恵美子

浅草寺にて

オーストラリア、カスタートンクラブのACマリアンヌと初めてメール交換したのが来日4ヵ月と2週間前でした。お互い初めてのACとHCという事もあり諸先輩からアドバイスを頂きました。35回程のメールでのやり取りですべての計画が整ったのは受け入れ日の3日前でした。トニーは牧場主でした。オーストラリアから生まれて始めての海外です。何でも興味を示し大騒ぎです。トニーの表情を見ているのがとても楽しかった思い出です。マリアンヌは日本語を勉強している日本大好きな看護師さん。現地の日本人にアドバイスを受けSuica、宅急便の事も理解されていて助かりました。

今まで呑気に渡航、受け入れをしていた私ですがAC・HC、ホストファミリー、各担当のリーダー及び担当の方々、全ての会員さんが協力して成り立つのだと痛感しました。貴重な体験ありがとうございました。

フェアウエルパーティー

Canada Toronto Club & USA Greater Cincinnati Club　渡航
2018年6月11日～26日　　AC 稲垣 洋子

Tronto

爽やかなお天気に恵まれ、いろいろな面からみて、アンバサダー達の満足度も高い滞在でした。特に前年度トロントクラブは我がクラブで受け入れていたので、到着空港出迎えも和やかな雰囲気で、これならいいステイが、期待できると思わされました。

ローレンス　マーケット　キチンは、一流シエフ指導の下、アンバサダー全員がわいわい楽しくフルコース料理を作り上げて、会食するというものでした。

おいしいものを食べるということは、大きな喜びの一つで印象に残るのは、私だけではなさそうですね。

ドレスリハーサルは公演の最終リハーサルのことで、本番当日と何ら変わりはないのですが、料金が非常に安い。クラブのどなたかが会員で特別チケットを手に入れてくださったそうで、トロントシンフォニーオーケストラと、ナショナルバレエ団のパフォーマンス観賞は、日本公演では、チケットを買えなかった私は感激でした。

R.O.M.の恐竜館もスケールの大きく見応え充分でした。グレイターシンシナティクラブの、H.C.のハードレイさんご夫妻は、賢く温かい人柄で私は学ぶところの多い出会いでした。

南北戦争時代などをテーマにしたフリーダムセンター、オハイオ川に沿った歴史の壁絵、アーミッシュ村、全員ゆったりと、しかしよく考えながら見学しました。

2006年ケンタッキー州のホームステイに参加したアンバサダーもいるので、後は個人個人で対応していただきたいとお願いしておきました。結果ホストのご好意で、水辺のコンサート、航空博物館、劇場のオペラ等々それぞれに合わせて案内していただいたと、うれしい報告を聞きました。2023 年春はグレイターシンシナティクラブ受け入れの予定です。懐かしい再会と素晴らしい出会いを心待ちにしましょう。

Greater　Cincinnati

ニュージーランド英語研修　AC 沼 純子

2018年8月18日～8月31日

＊滞在先と参加者数　ニュージーランド　北島

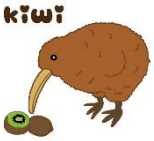
1)Kapiti Coast Club	8/20-8/25(6泊)	15名
2)Wanganui Club	8/26-8/31(6泊)	10名

＊参加費　約22万円（2週間、ACグループ）

内訳；FFI fee 280ドル、Host fee 200ドル、

バス等移動費100ドル、航空運賃約14万円他

（現地集合・解散とし航空便は各自手配）



＊英語研修と文化交流

今回受入れの2クラブは過去に英語研修の受け入れ経験があり、それぞれプログラムを工夫。英語のワークシートを用いた博物館や市内見学、各種ゲームではホストとコミュニケーションができて好評だった。

学校訪問ではハカダンスの歓迎とクラス見学、市庁舎訪問、リタイアメントハウス見学、牧場、Bird Sanctuary散策、原住民マオリの工芸などのNZ文化を学ぶと同時に茶道、折り紙、風呂敷包み、兜作り、日本の歌と踊りや寿司作りなど、英語を用いて日本文化を紹介。参加者の特技を生かすことができた。

＊事前学習とLineによるコミュニケーション

8月の旅行だったので、学生や仕事を持つ人も参加。多様な顔ぶれだったが、3回のワークショップでNZ学習や英会話練習など。 出発前にはグループとしてよくまとまっていた。

ITに強い丸山さんがLineグループを結成してくれ、渡航前後の情報交換、写真共有に役立った。

＊まとめ

FFの英語研修は英語学校の研修とは異なりホームステイを活かすことが大切。ホストの好意に感謝しつつ、積極的に英語を使って交流を深めると良いと思う。

AACの三好さん、会計の田中さん、素晴らしい研修報告を作成してくれた新井恭代さんを含め全員で盛り上げた楽しい旅だった。NZの美しい自然や環境を守る姿勢、マオリ文化を大切にする心、シニアの生き方など、多くのことを学んだ有意義な旅だった。

New Zealand Whangarei Club　受入れ　2018年11月10日～17日　　HC　西村　純枝

Ambassador 14名（男性3、女性11）1組はAus.から参加。またWhangareiクラブ他2クラブからも合流。参加希望が多く2名は、4軒のホストファミリーが受け入れシェアで解決した。HC西村、AHCに浜田、村松態勢で取り組んだ。成田空港迎えを原田、西村と出向くが、違う階で待っていたりと混雑の空港迎えも気を揉む。これは、渡航時も同じことで異文化交流の洗礼か。

ウェルカムパーティーは道江リーダーのもと与野本町コミセンでスタート。各担当は手際よくあれよと言う間にセッティング。しかし着付けなどはみんなが少しでも着せることが出来るようにと前から入念にスケジュールされて郡山邸などに通い免許皆伝になり（笑）、会に入りたての方も恐る恐る参加するも、ここでメンバー同士の交流に馴染んでいける良い機会と捉えている。お花は新井　（ミ）、習字は牧野内のベテランに安心感を持ち甘えてきている。冊子（池田、堀切、丸山）には、担当を担った全会員名が池田さんアドバイスで載せてあり、係わった自身と改めて対面でき、達成感が目に見える形になり感謝。

合気道練習見学と体験も加え好評。高堂リーダーのもと新井恭代、丸山で日光田母沢御用邸をメインに計画し世界遺産へも足を伸ばす。オプションで東京ツアー、杉本リーダーのスタンダードコースと原田率いる夜まで健脚コースを決行。あっぱれシニア！フェアウェルは加藤、増田担当で東天紅。歯切れ良い増田司会・挨拶、AUS からの Tony が日本語も交え笑いを誘う素晴しいスピーチで、みな再会を口々に別れを惜しんだ。

東京夜まで健脚ツアー　夕陽の浜離宮

2019年

Germany Varel Club　　受入れ　2019年3月25日～4月1日　　HC　外山　哲代

ファーレルクラブ着物姿

FF 埼玉は、ドイツのファーレルクラブ及びドイツの他クラブからのアンバサダー14名をお迎えして受入れを行った。ファーレルクラブは、2017年9月に埼玉クラブが渡航をしてお世話になったクラブである。そのリターンの受入れのため再会を楽しみにしている声も多く聞かれた。

ファーレルクラブの渡航は、台湾のクラブとの交流の後、日本では FF 埼玉、FF 大阪へと続く日程であった。春、桜の季節となると観光客はどこも大変多いが、アンバサダーには是非日本の美しさを満喫してほしいと願っていた。

我が家には、AC の Gisela さんご夫妻に泊まって頂き、AC と HC で翌日のスケジュールの打ち合わせは比較的スムーズであった。バスツアーの時、Gisela さんは鎌倉の小町通りでお気に入りの物を買うことが出来て嬉しかったようである。また埼玉ツアーの弓道では、弓に矢をつがえて実際に射る体験をなさった。フリーデーではご夫妻が若い頃柔道をなさった経験があるため、後楽園近くの講道館にご案内したところ練習風景を熱心にご覧になっていた。ESS では、アンバサダーたちはそれぞれ分かれて日本人が数名のグループの中に入り和やかながらもメンバーからの質問を英語で受けて一生懸命に答えていらした姿が印象的であった。

FF 埼玉の方々には、アンバサダーの方々に生花、書道、着物などの日本文化を熱心に教えて頂き、また観光地への案内では随所、気を配って盛り上げて下さったことを非常にありがたく思った。

ディナーパーティー　堀切邸にて

New Caledonia　Nouméa Club 渡航　2019年9月17日～24日　　AC 浜・堀切

モン・ドール市長と

初めて AC を引き受けましたが堀切さんにもお願いして二人体制で臨み、得意とするところを分担し、また協力しながらの渡航でした。リターンで交流したニューカレドニアはフランス領でニッケル資源が豊富。日本から鉱山の採掘労働者が移住し、ゆかりの深い地でもあります。会員には日系の方もいらっしゃいます。深夜に空港着後、歓迎を受けてホスト宅へ。翌日はモンドール市長の歓迎レセプションで盆踊りを披露し、朝食をいただく。歓迎パーティーでの料理学校生徒によるランチも好評。ウアントロの丘では会員が持ち寄った夕食を頬張りながら素晴らしい夕日鑑賞。3 日目は長いドライブ後、日本人ゆかりの地、チオへ。鉱物博物館見学と日本人墓地で線香を手向ける。翌日はアメデ灯台へ船で向かい、一日中、クルーズ・スイミング・シュノーケリング・灯台散策・ランチとポリネシアンショーなど楽しむ。5 日目はウニア族の伝統食ブーニャを食べにドライブ。具材をバナナの葉で包み熱した土中で蒸す料理。ココナツミルク味にバナナやお肉が美味しく、皆が満足。翌日、市場とチバウ文化センターへ。多民族共生の文化を知る。フェアウェルパーティーではポトラックの海老やケーキに満足。本場のフレンチカンカンを鑑賞して皆でダンスに興じる。そのまま空港へ向かい深夜便で東京へ。

ヌメアクラブの日本人会員の加藤かつ子さんにはずいぶんお世話になりました。また、渡航後、HC のマリエメさんが急逝したとの知らせにびっくり。肝っ玉母さんのように力強かった彼女を偲び、この渡航で得た経験は貴重な宝となっています。

海辺でランチ

UK Leicestershire Club　受入れ　2019年11月6日～13日　　HC 原田　史

浅草・浅草寺にて

2012 年 5 月に訪問したレスターシャークラブが埼玉クラブに来訪。7 年半と再会までに少し間が空いたので、ホストとアンバサダーの麗しい交換風景は少なめでしたが、やはり心躍る受け入れの 1 週間でした。私の元のホストのジャネットとロバートのお二人も数年前に FF を退会なさっていて、お会いすることはできませんでした。

レスターシャークラブも高齢化の影響か会員減のようで、16 人の一行の中に遠くオーストラリアから 2 人、国内のヨークシャなどから 3 人、ベルギーから 1 人の他クラブの参加者がありました。混成部隊でも敢然として渡航して来られるのが、西洋流だなあとしみじみ感じた次第です。

ウエルカムパーティーで埼玉クラブ名物？の着物着付け・パレードの洗礼を受けてから、埼玉の日々が始まります。さいたま(市)ツアーは①市の武道館の弓道見学＋体験②公立としては初めての大宮盆栽美術館見学③和風ファミレスでの昼食④鉄道博物館見学と続きました。埼玉クラブには馴染みの訪問先、日光にも定番のバスで出かけました。田母沢御用邸は紅葉と共に日本文化の圧倒的な力で迎えてくれます。修復中の東照宮は混雑もほどほどの有難さでした。東京ツアーは私どものクラブには欠かせないファクター。従来は健脚コースとスタンダードコースなど 2 つに分かれて実施してきましたが、今回は4つのコースを設けて、スタートの浅草寺は皆で。後は歌舞伎座、合羽橋、都庁、皇居などなど、百花繚乱のメニューが揃いました。アンバサダーがコースを自由に選べるやり方だとベストでしたが、それは今後の宿題として、「大東京」の無限とも言える魅力・大きさに、ゲストの皆様も感心されたのではないかと思っています。埼玉もお隣り東京も楽しんで頂きたい、変わらぬ願いです。

大宮武道館にて弓道体験

2016年11月12日（土）　第28回　FF日本大会開催　　於：ホテル ブリランテ武蔵野

「集おう！彩の国埼玉で　　語ろう！明日のFFを」

埼玉クラブのホスピタリティーとエネルギーを存分に発揮

息子さん同伴のFFI会長 Jeremi Snook氏をはじめ、愛知名誉顧問・初代会長佐藤さんと懇意のFFソウルクラブ元会長夫妻、そして全国26クラブの会員207名が参加し、盛大な大会が開催された。

原田史会長のもと、池田完之実行委員長、副実行委員長に増田信枝さんと西村介延さん、事務局長の西村純枝さんが中心となり、開催に向け前年度から用意周到に準備されてきた。

当日午前中の代表者会議ではブロック会議報告や“明日の FF を語ろう“をテーマに、池田実行委員長からアンケート報告と 5 クラブからの発表が行われた。

午後からの全体会議会場の受付には熊本地震への義援金箱が置かれた。会議前に盆栽美術館学芸員の田口文哉氏から盆栽についての講演があり、立派な松の盆栽がステージ前に置かれ、目を引いた。増田さんの開会宣言とスムーズな司会進行で会議が順調に行われた。ゲストと参加クラブ紹介ではめいめいに万雷の拍手が送られた。池田さんの代表者会議報告、FFI 会長の熱意溢れる講演、石井メンターや 2 クラブの発表の後、それぞれ会場を移動して、身近なテーマについてグループ討論が行われた。

懇親会は羽島さんの司会進行でスタート。叡明高校合唱部による男性コーラスは力強さに溢れ、皆を魅了。またお土産として配られた和紙の歌詞カードで全員が「花は咲く」を合唱。会場がひとつに。会食・歓談中には着物カバーがかけられた埼玉産ワインが当たるサプライズコーナーも。会食後はサンバ棒を手に全員が埼玉サンバを踊って会場は大盛り上がり。次回開催地の郡山クラブからの案内と FF の歌を全員で合唱し、明日の川越ツアーのお知らせをして閉会となった。

会員の手作りによるものは、和紙の歌詞カード・ワインボトルカバー・サンバ棒・埼玉会員である目印用のピンクのリボン。親睦を兼ね和気あいあいと作業に取り組んだ会員たち。どの部署も会員が全力で取り組み、埼玉クラブのホスピタリティーとエネルギーを存分に発揮した記念すべき大会となった。

11月13日（日）　オプショナルツアー「秋の川越めぐり」

参加者は Jeremi 会長父子、全国の会員 68 名と埼玉クラブ会員 26 名の 94 名。息子さんには前日に続いて特別チームが作られた。参加者は 2 グループに分かれて川越へ。喜多院・松本醤油見学後、「右門」で昼食。昼食後は班ごとに祭り会館の見学やお菓子横丁などを散策後に帰路へ。埼玉クラブ会員は川越ツアーを楽しんでもらおうと事前準備も万端。当日は他クラブの会員との交流も楽しんだ一日だった。

埼玉クラブのイベント（2013年～2022年の10年間）

2022年　5月 **埼玉クラブ主催国内交流：新緑の世界遺産日光を楽しむ**（埼玉クラブ会員のみ参加）

2月 **ZOOMでWorld Friendship Day**　3名の講演会

1．「世界の仲間と環境問題を語る」

2．「火の国アゼルバイジャン」・・埼玉大学留学生　ハジザダ・ヌライさん

3．「Halle／Saaleについて」

2021年　8月 **ZOOMで暑気払い**　（昼と夜開催）

各自おつまみ・飲み物を用意してZOOMでおしゃべり

5月 **初夏の自然散策：北本自然観察総合公園**・学芸員の案内で公園を散策

3月 **ZOOM勉強会**

参加者を5グループに分けて5名の講師からZOOMについて教わる

2月 **ZOOMでWorld Friendship Day**

ウクライナについての歴史と動画・佐藤優著「十五の夏」の感想

受入れの経験から教えられたこと

2020年 11月 **ZOOMで会員ミーティング**：グループに分かれテーマについて意見交換

10月 **武蔵丘陵でBBQ**　密を避けて屋外での集い

9月 **ZOOMで「黄金のウクライナ」講演会**

講演者：ヤンナ・ドゥブニコバさん（ウクライナからの留学生・一橋大学）

2月 **World Friendship Day：　講演会「近くて遠い国・ウクライナ」**

東京外国語大学名誉教授　中澤英彦氏　　会場：With Youさいたま

2019年 11月 **ニューカレドニア・ヌメア家庭料理講習会**　　渡航先の料理を再現

8月 **講演会「どの出会いも大切に」**：1.私が旅するわけ　2.駐在経験の話（2名の講演）

3.Global Exchange Programという経験　　講演会後にビアホールで暑気払い

8月 **品川宿・池田山散策：**品川区観光協会のガイドボランティアの案内で品川を散策

3月 **川越観光英語研修　：**川越市在住稲垣さんの英語研修

2018年 12月 **Year-end Party**：マジック・3名の発表「旅の楽しみ方あれこれ」

1.フィンランド゛でのちょい住み　2.短期留学の面白さ　3.93カ国を旅して・バザー

9月 **カナダの家庭料理教室**：トロントでシェフと一緒に作った料理を日本風にアレンジして

7月 **体験談を聞いてレストランでランチを：**1.海外生活体験談

2.”Youは何しに日本へ”の取材体験　3.北米トロント渡航のホットな体験

5月 **朝日新聞社見学ツアー**：新聞つくりをまじかで見学後、新聞社内レストランでランチ

2月 **名刺作り講習会：**PCでFF向きの自分の名刺を作ろう

2017年 12月 **Year-end Party**：会員による生演奏・バザー・3名の体験談

1.20年間の渡航受入れ体験　2．初めての渡航　3．受入れホスト経験から得たもの

11月 **あなたの国際感覚は☆（星）いくつ？**：会員５名の発表・・・1.通訳ガイドとして

2.ｱﾌﾘｶ大陸の大地に感動して　3.パレスチナ難民キャンプにホームステイして

4.「ポトマック茶論」国際交流・生活の美学　5.日本の歴史を外国人ゲストにガイドする 喜び

8月 **夏を踊りで乗り切ろう！**：おてもやん踊りとドジョウすくい！を習う

7月 **ドイツ文化セミナーとドイツ料理とビールの’集 い:**渡航先のドイツを知ろう

6月 **料理講習会　台湾まんとう作り**：昨年、渡航先の台湾で習ってきた料理を講習

5月 **都心ウオーキングとランチの会**

浜松町～芝増上寺～NHK放送博物館～愛宕神社～Ballo Ballo（ランチ)～日比谷公園。

3月 **World Friendship Day**：モロッコ世界大会報告・ヌメア、ニューカッスルクラブ受入れ報告

ファーレル、リューベック渡航のプレゼンテーション

2月 **料理講習会とグループ懇談：** 春餅＆天草寒天のあんみつ

2016年 12月 **Year-end Partyと日本大会慰労会**

ニュージーランド英語研修報告・グループ懇談・夜は居酒屋で日本大会慰労会

9月 **都庁展望台見学とランチの会**：新宿界隈を散策

6月 **サンバ棒作りの会**：日本大会懇親会で使うサンバ棒を作る

4月 **World Friendship Day**：ロシア、台湾渡航報告・受入れニューカレドニアのビデオ

埼玉大学落語研究会2名の落語・ビンゴゲーム他

2015年 12月 **Year-end Party**：ノルウエー、スイス、ニュージーランド、メキシコ渡航の話・生演奏・バザー

10月 **秋の見沼ウオーキングとランチの会**

9月 **歌おう！そしてビヤガーデン**：皆で唱歌、フォークソング、演歌を歌った後、ビヤガーデンへ

7月 **ノルウェー・スイス家庭料理教室**：6月に渡航した2カ国の料理を皆で作ろう

3月 **World Friendship Day**：ハンガリー、ベルギー受入れ報告・カナダ、アメリカ渡航報告・バザー

2014年 11月 **都心ウオーキングとランチの会**：消防博物館、国立劇場の伝統芸能情報館など見学

6月 **BBQパーティー**：森林公園近くのBBQパラダイスで

3月 **World Friendship Day**：世界大会報告・ハンガリー紹介ビデオ・生演奏・ビンゴゲーム他

2013年 12月 **Year-end Party**：モロッコ渡航の話・皆で歌おう・埼玉大学落語研究会2名の落語・バザー

3月 **World Friendship Day**：ハワイアンの生演奏とダンス・ビンゴゲーム・バザー

歴史を紡ぐ街「川越」探検

稲垣　朋彦

「小仙波貝塚跡」「喜多院」「時の鐘」「蔵造の街並」そして「菓子屋横丁」、川越の観光スポットを歴史順に並べたものです。約 6,000 年前の小集落から始まり、西暦（以下西暦表記）830 年「喜多院」が建立されて以降、江戸幕府が開かれる以前は、江戸を上回る隆盛を見せたこともある川越は、様々な歴史的スポットを残しつつ発展しています。この素晴らしい川越の街を探検しようではありませんか。

小仙波貝塚跡
約 6,000 年前の縄文時代の貝塚です。当時川越は海に面していて、東京湾の最奥に位置し、海と淡水の貝を獲り、湧き出る泉を中心に集落が営まれていました。

喜多院
830 年、東国に天台宗の教えを広めるために建立されました。以後、江戸城紅葉山の別殿が移築され、三代将軍徳川家光「誕生の間」や春日局の「化粧の間」を見学することができます。

時の鐘
1627～1634 年に建立された時を告げる鐘楼として、現在も日に4度（6時、12 時、15 時、18 時）時を知らせてくれます。高さは約 16mで奈良の大仏とほぼ同じ高さです。

蔵造の町並み
耐火構造です。川越商人に蔵造りを広めるきっかけとなった呉服商の大沢家住宅（1792 年）を始めとした伝統的な町並みは、1999 年 12 月には、国の「重要伝統的建造物保存地区」に選定されました。

菓子屋横丁
明治始めから菓子製造がおこなわれていました。関東大震災で東京に代わって駄菓子を製造するようになり、店舗が増加しました。現在は 20 数件のお店が郷愁を感じさせてくれます。

こうした歴史的スポットに加え、知る人ぞ知る川越隠れおすすめスポットがあります。

伊佐沼
南北 1,300m、東西 300m で自然沼として埼玉県最大、首都圏でも印旛沼につぐ第二位の面積を誇ります。春の桜、夏の蓮の花が見事で、近くにはアルカリ性の天然温泉「小江戸温泉 KASIBA」があります。

スターバックス川越鐘つき通り店
時の鐘の並びです。大正から昭和初期の襖絵が飾られた店内と和風庭園のある素敵な空間です。

いかがでしたか、歴史を紡ぐ街「川越」は海外の方々からも愛されています。この素晴らしい川越の街を探検しようではありませんか。

世界遺産　日光

百名　良子

日光は埼玉クラブにとってお客様をお連れする絶好の観光スポットの一つで、たくさんの見所が散りばめられています。特に、日光を代表する日光東照宮は徳川家康を祀るお宮で、死後も江戸の真北にある日光から幕府の行く末を見守ろうとした家康の心を汲み、三代将軍家光によって建てられました。

五重塔、三神庫、新厩舎三猿、唐門、陽明門などが必見です。特に、陽明門は日本で最も美しい門の一つと言われ、500以上の彫刻が施されていて1日中見ていても飽きない、というところから「日暮の門」とも呼ばれています。1999年日光東照宮、輪王寺、二荒山神社の「建造物群」とそれを取り巻く文化的景観が「日光の社寺」として世界遺産に登録されました。

少し左奥へ進むと二荒山神社の先に、日光山輪王寺（家光廟大猷院）が見えてきます3代将軍徳川家光のお墓です。徳川家光は臨終に際して、「死後も魂は日光山中に鎮まり東照公のお側近くに侍り仕えまつらん」と遺言し、48歳の若さで江戸城で没しています。家光は祖父・家康を熱烈に崇拝していたため、自分の墓所を東照宮のそばに置くことを望んだとされています。地味ながら要所要所に素晴らしい装飾が施されおり、途中にある展望所から全国の大名家が奉納したとされる315基の灯篭が見渡せ、こちらも見事です。

東照宮から少し登っていくと、日光田母沢御用邸が見えてきます。旧紀州徳川家江戸中屋敷の一部を移築し、明治32年(1899)に大正天皇（当時　皇太子）のご静養地として造営されたもので、平成15年(2003)に「国の重要文化財」に指定され、平成19年(2007)には「日本の歴史公園100選」に選定されました。

100年の歴史の重みを感じさせる日光田母沢御用邸内部、また四季折々の風情あるお庭は外国のお客様にも大変人気があり、いつも出発予定時刻を過ぎてしまい、焦ってしまうことも度々です。

更に中禅寺湖へ登っていくと、そこには高さ97m、日本三大名瀑の一つ「華厳ノ滝」があります。中禅寺湖の水が一気に落下する雄大な美しさは展望台から見上げることができます。中禅寺湖へ向かう道路は「いろは坂」と呼ばれ、それぞれのカーブに「い」「ろ」「は」と文字板が建てられていてゲストの方々と一つ一つ確認しながら日本のアルファベットですよ、などと説明すると話題も広がります。

いろは坂からの展望は素晴らしく、特に秋には紅葉が楽しめる、全国でも有数のドライブスポットです。また中禅寺湖周辺の燃えるような真紅の紅葉も見応えがあります。秋はまさに紅葉づくしとも言える日光が堪能できます。

大宮から日光は少々長旅とはなりますが、日帰りでこれだけの素晴らしい歴史的建造物、壮大な自然を堪能できるところは全国でも数少ないのではないでしょうか。

日光田母沢御用邸

華厳の滝

アンバサダーと行く～～楽しい一日東京観光プラン～～ 楽しんでくださいね！

長屋　正子

アンバサダーと行く一日東京観光の訪問ヵ所はお連れしたい所が沢山。決めがたいのですが、プランニングしてみました。**訪問ヵ所は皇居と東御苑、銀座、浅草（ランチも）そして両国。**両国では世界でも良く知られている日本文化が育まれた江戸時代を感じ体験出来ます。それでは Let’s　start!

集合場所：出発時間　　JR 大宮駅：9:00AM　帰着　JR 大宮駅　18:00

① **東京駅到着：9:30AM**　東京駅はヨーロッパで建築を学んできた辰野金吾設計により 1914 年に建てられた。外国に引けを取らない首都中央駅の建設は明治政府の悲願。世界中で例がない皇室専用出入口が造られ、皇居と向かい合っている。レンガと鉄骨の併用で建てられ、関東大震災でもびくともしなかった。2002 年に地上空中権（本来その敷地に建てられる空積率）を周辺のビル建設に売却し 500 億円の建設費を捻出し、戦後の応急復旧の駅舎が本来の 3 階建てに復元された。

② **丸の内を通り皇居へと歩く。**丸の内は江戸時代には大名屋敷街だったが、明治維新後（1868 年）は廃墟になった。岩崎弥太郎（三菱財閥）が買収に成功し三菱一号館も建ち、様々なビルが建てられ現在も発展し続けている。

③ **皇居到着　9:45AM** 皇居は東京の中心に位置し、天皇と皇后のお住まい。江戸城があった場所。江戸時代、17―19 世紀には将軍幕府の本拠地。その遺構の石垣や櫓は現存。敷地は 285 エイカー。お堀の周囲は 3 マイルでジョッギングには完璧な長さ。バッキングパレスの様に公には開かれてない。1 月 2 日と天皇誕生日の日だけ二重橋から皇居内の建物の長和殿の前提まで一般人は歩く事が出来る。

④ **東御苑　10:00―10:50AM** 皇居の一部。1968 年から一般公開。三の丸尚蔵館で皇室保有の美術品が見られる。二の丸日本庭園では桜、ツツジ、菖蒲、季節ごとの花を愛でながらの池も眺めての散策が楽しめる

⑤ **銀座到着　11:00―12:00**(タクシーで銀座へ)各自好きな店に入る。三越デパート、鳩居堂、日産ショールーム等々。

⑥ **浅草到着　12:30-14:45**(地下鉄で浅草へ) 天ぷら、蕎麦屋、お好み焼き等にてまずは昼食。浅草寺は東京の最古の寺で7世紀に創建。コロナ禍以前は毎年3千万人が訪問。風神・雷神が守る雷門、仲見世通り、宝蔵門の仁王様、香炉を過ぎて手水舎で清めた後は本堂で願い事。

⑦ **両国到着　15:00-17:00** (タクシーで両国へ) 両国と言えば相撲。取り組みが行われる国技館。街を歩いてお相撲さんと出会ったら写真を一緒に取らしてもらいましょう。江戸東京博物館を訪れて、江戸、昔の東京がどの様に造られ、日本独自の文化（歌舞伎、浮世絵等）が如何に花開いたかを理解する。刀剣博物館や北斎美術館も興味深い。

⑧ JR 両国駅出発　17:00　JR 大宮駅へ。

コロナ禍による
2020 年からの取り組み

2020 年 2 月までは理事会を対面でおこなう事が出来ていましたが、
予想もしていなかった新型コロナウイルスの蔓延により、3 月より
Line ビデオ通話等様々なツールを試し、たどり着いた ZOOM。
当初は不安もありましたが、勉強会の開催などを経て、理事会はもとより
総会等様々なイベントを開催する事ができるまでになりました。
ここでは、コロナ禍で会員交流に重要な役割を果たした《かわら版》と
ZOOM で開催している3つのサークル活動をご紹介します。

かわら版発行開始
「渡航・受け入れのない時期を少しでも会員に忘れられないよう努力中！」

他クラブの活動からヒントを得た第四代会長原田史さんの提案による《かわら版》の発行。記念すべき第1回は2020年6月5日でした。以降、原田さんを中心に広報部員により情報発信をおこなっています。
コロナ禍でなかなか思うような交流が持てなかった会員にとって、かわら版から伝えられる情報は楽しみの一つ。
また、タイムリーに会員に様々な告知をおこなえるツールとしてなくてはならないものになっています。

《ZOOM 開催中の 3 サークル》

健康を語ろう会　川田恵美子

2021 年 11 月、先の見えないコロナ禍の中で、小林恵美子さんと岩崎倉子さんのご尽力、ご協力で健康を語ろう会が発足。総勢 10 名のメンバーが、月二回 Zoom でストレッチ、筋トレに励んでおります。
　年齢を重ね健康に不安が、stay-home が続き運動不足、肩甲骨周りを強化したい等々、各々の悩みや希望やを持ち寄り、岩崎先生からアドバイス、運動のご指導を頂きながら和気藹々と過ごしております。

読書会の開催　大熊　幸雄

2021 年 11 月から 2 か月に一度の頻度で読書会を開いております。第1回は 佐藤優著「十五の夏」。県立浦和高校に合格したお祝いで夏休みに東欧、旧ソ連のへひとり旅に出かけます。当時のお国ぶりや対応が様々で筆者の記憶力や感性に感心します。第2回は 県立浦和一女卒の須賀しのぶ著「また、桜の国で」。シベリア孤児との出会いから外交官を志しポーランド・ワルシャワでナチスドイツの侵攻を目の当たりにします。今のウクライナと重なります。第3回はディーリア・オーエンス著 「ザリガニの鳴くところ」。貧困白人女性が、豊かな自然環境の中で自立してゆく過程を描くミステリー。第 4 回は、イザベラ・バード著「日本奥地紀行」を取り上げます。約 500 ページの課題本を読み感想を述べ合いますが、人により様々な読み方があることが分かります。

英語の会　田中加代

「英語の会」は、高校で長らく英語教諭を務められた沼純子さんにお願いし、月に 1～2 回木曜日の午後 3 時から 40 分を 1 コマに 2 コマで様々の時事英語を課題として取り組んでいます。皆様意識が高くこれからが楽しみです。テーマは重すぎずタイムリーな情報を沼さんが的確に選んでくださり、皆さんも取り組みやすそうです。言葉は生き物で日々新しい表現があることに驚かされます。

2022年5月 埼玉クラブ主催国内交流

新緑の世界遺産日光を楽しむ

増田　信枝

パンデミックの為に海外クラブとの交流が難しい中、FFJ は日本国内のクラブを訪ねあう国内交流事業を提案しました。埼玉クラブの 2022 年総会後グループ毎の話し合いは、埼玉にお迎えする場所の検討で大いに盛り上がりました。

早速、国内交流委員会への参加を募り 7 名でスタート。委員会では「全国の皆さんをお誘いしたい」「埼玉クラブの皆さんもお誘いしたい」「自分が行きたい」と思える場所は？と話し合って、目的地を長瀞と日光に絞り、2 つの大宮駅発着日帰りプランを作りました。川下りがメインの長瀞は、天候のリスクが大きいために見送り、今回は日光を行うことに決めました。

日光ハイキングを楽しみたい方にも、山道は苦手という方にも、そして万一の悪天候にも対応出来るようにと 2 つのコースを作りました。下見では、両コースの行程・昼食会場確保・バス時刻確認・パンフレット入手などを 1 日でこなした皆さんのタフさに脱帽。再度の詳細打ち合わせを経て出来上がったのが、次のコースです。

大宮駅→JR 日光駅→バスで東照宮表参道→東照宮拝観→昼食　その後 2 つに分かれる。①ハイキングコース：瀧尾神社→二荒山神社→神橋　②田母沢コース：二荒山神社→田母沢御用邸→神橋

神橋で合流し帰路へ

素敵な案内チラシを全国に配信しましたが、参加は埼玉クラブの 13 名だけでした。当日の感想の一部です。「アンバサダーを案内する時とは違い、日光を自由にゆっくり楽しめました。」「ここも日光なのね？と私の知らない苔むした緑深く美しい場所、笑顔のみんなと一緒に穏やかな一日を味わいました。」「新緑の日光で皆様とともに一日を過ごし、FF 埼玉の素晴らしさを心に刻むことの出来た最高の一日になりました。」・・・

他クラブとの交流は叶いませんでしたが、皆さんの協力でとても良い企画になりました。

日光駅をスタート　世界遺産観光ハイキング　　日光東照宮～田母沢御用邸・二荒山神社～神橋

それぞれの Memories

※（　）内は入会年です。

懐かしい思い出　　新井ミキエ　（2005 年）

17年間の懐かしい思い出。渡航してホストが我が家にも来てくれたら嬉しいと思いました。日本文化のいけ花を皆様と一緒に楽しめたらと英語いけ花を勉強しました。両方の夢が叶いました。

イギリスのホストとフランクフルトの世界大会で偶然会い、翌年のレスターで受け入れできました。

渡航受入だけでなくNZのグラハム夫妻はクルーズの途中で日本に立寄り、一緒に富士山バス旅行、渡航した埼玉メンバーと木曾路ランチもしました。

ヌメアのマリアンジュは受入の2年後1週間のステイ中2人で旅行を楽しみました。

FFのおかげで国内外の友達がたくさんできて良かった。

初めての渡航　　新井恭代　（2012 年）

FF での初めての渡航《ニュージーランド英語研修》。娘達も夏休み期間中だったので母娘3人での渡航でした。

次女と私は一緒に Taylor 家にホームステイ。

4 人でまったり庭を見ながらお茶をしたり、一緒にお料理をしたり、娘は近所のお友達の家に遊びに行ったり、買い物に行けば女3人が買い物をしている間運転手の Allan はコーヒーを飲みながら待っている、まるで母娘で里帰りをしているよう。もう一つの素敵な実家ができました。

ニューカレドニア渡航　　石橋博之　（2017 年）

若い人は、良く知らない？中高年の人は良く知る？“天国にいちばん近い島”森村桂著 1966 年出版のニューカレドニア島に 2019/9/17～9/24 に行き海と空、景色を堪能しました。ホストのパトリシアと夕方、海辺のカフェの外の席で彼女のご主人がフランスから帰ってくるのを待ちました。ご主人は、気さくで素晴らしい人でした。夕日の沈む海辺でお酒を飲んで素敵な一時を過ごしました。若い時にこんなお店を知っていれば、私の人生・・・・

英語研修渡航　　一小路さよ子　（2018 年）

2018年の入会以来、2度のホストと1度の渡航を経験。英語研修渡航は入会以来の希望でした。

そんな折、目に入ったのが2019年愛媛クラブの Northern　Illinois（suburban Chicago）渡航。
Chicago は30年近く前の夫の転勤先。
降り立ったオヘア空港、シカゴ美術館前のライオン像が懐かしい。早々と参加申し込み。

本当に無謀で、幸い埼玉クラブから高堂さん郡山さんもご一緒で、お二人にはお世話になりました。

Chicago のホストファミリーは来日希望。

彼らのその希望は、FF 活動自粛期間中も私の微かな支えでした。日本での再会を楽しみにしている。FF の醍醐味ではないですか。

心に残るツアー　　稲垣朋彦　（2017 年）

皆様のご厚情により、ツアーでのヘルパーの機会をいただき感謝しております。

川越や都区内のツアーなどを通じ、他の会員の方々が、海外の方々に日本文化・歴史をどのように説明されるのか、海外の方々が日本文化・歴史をどのように受け止められるのか等々多くの学ぶ機会をいただきました。

これからもツアーのヘルパーとして少しでもお役に立て、学ぶ機会をいただければと思っております。
どうぞよろしくお願いいたします。

国際交流　　稲垣洋子　（2004 年）

国際交流といえば、私の場合、当時としてはまだ珍しいカリフォルニア大学、ブリティッシュコロンビア大学等々の交換留学制度が頭に浮かびますが、旅費を含む費用があまりにも高く親に頼る事ができず泣く泣く諦めました。

ラボチューターになってからは、引率者として真っ先に渡米し、我が子のみならず他人のお子さんまで、夏休みホームステイ中心の渡米に参加するように勧めてきました。

退職してからは、FF で毎年‘渡航’と‘受け入’を楽しんでいます。知らない方と文通が始まり、実際にお会いしてステイさせていただきながら、その地域の人々、文化、歴史、地理など様々について知ることは、最高のよろこびです。

渡航先の思い出　　岩﨑倉子（2005年）

主人と唯一の渡航先がニュージ―ランドウエリントンのシンデイ宅。老人ホームを見学したい旨希望したら２ヶ所見せてくれた。

1つは1戸建が何十軒も建ち、敷地内に集会所や図書館があり、お隣の窓が開かなかったら連絡するシステムに。もう1つは丘の上にある大きなマンション。1人用夫婦用のルームがあり、エントランスは素敵なホテルのよう。隣りには病院もある。メンバーのお友達が住んでおり、素敵な景色快適なお部屋の住民の方が“ここのレストランは美味しいし5つ星ホテルよ“と言っていたのが印象的でした。

素晴らしい老後の生活だと思った。

2014 年9月　映画やテレビでしか見られなかった憧れのニューヨークに渡航　　大熊幸雄（2011年）

マンハッタンの地下鉄、セントラルパーク、トランプタワー、セイントポール大聖堂、ウォール街、フィフスアベニュ、タイムズスクエア、自由の女神を横目にフェリーでスタテイン島へ、世界貿易センタービル跡地、ブロードウェーでミュージカルを見る等々、永年の夢が叶った。

ホームスティしたロングアイランドで3ポンドのロブスターを50ドルで満喫した。

FFと私　　太田和子（2010年）

FFで何度か渡航は参加致しましたがアンバサダーがいらした時はアテンドしか行っておりません。
ですがいつも楽しく過ごさせて頂いて居ます。日光、箱根、都内、埼玉と。

コロナも有り2017年の盆栽美術館、鉄道博物館が最後でした。盆栽美術館はボランテアの説明もありみなさまに喜ばれています。

FF 埼玉の会員の方々のモチベーションの高さに惹かれます。結束の強さとパワフルな動きが魅力です。今後も皆様と楽しく活動させて頂きたいと願っております。

地球の裏側から来た家族　　宇田祐子（1995年）

だいぶ前のこと、ブラジルのクリチバ家族4人の受け入れをした。当時は我が家も3人の子育て真っ最中だったので、一緒に過ごせたら楽しいかも、と思い喜んでお受けした。思った通り楽しい受け入れだった。時差もあるので数日は夜も賑やかだったが、ママが私たちに気を使い部屋で静かに過ごそうと頑張っていた。 みんなで出掛ける時には 大喜び、子供たちも何となくコミュニケーションを取りながら一緒に遊ぶことができた。

ビッグファミリーで過ごした賑やかな数日間を、子供たちが社会人となった今、懐かしく思い出す。

初めての受入れ　　大山芳江（2019年）

まだ新米会員です。

入会して 3 年目、恐らくは最も経験の浅い会員であろうと思います。

入会後まもなくイギリス・レスターシャからのメンバーを迎えて埼玉ツアー・東京ツアーを経験させていただきました。とてもパワフルな FF 埼玉のメンバーと同じくらいお元気なレスターシャのメンバーに強いインパクトを受けました。そしてその直後に始まったコロナ禍。対面での活動が難しくなりましたが、昨年から理事として毎月理事・監事の皆様と ZOOM や時には対面でお会いすることが楽しみになっています。早く会員の皆様と対面での活動でお会いできることを願っています。

海外出張　　太田富雄（2012年）

私の海外渡航は 34 歳の時でした。急に海外出張を命じられて、砂漠の国サウシアラビアに出向きました。しかし、この初めての海外旅行が私のその後の人生を大きく変える出来事になりました。

仕事を無事終えて、帰国する前に欧州旅行を楽しみました。そして今年の 5 月のエーゲ海クルーズが年齢と同じ 81 回目になりました。おそらく今回の旅行が最後の欧州旅行になると思っています。

心から通じ合う　　小川幸子　(2019 年)

渡航も受け入れも出来ない今日この頃、今まで訪問した国や来日した FFメンバーの事を想い出しています。

本当にその国を理解するには最低一年はその国で暮らさなければわからないと思いますが、 FFのアンバサダーとは心から通じ合う所が多々ありました。

今度交流が再開した時、どうしたら日本をもっと知って貰えるか!! 楽しんで頂けるか!! と、コロナが落ち着いたら色々な場所を下見しておこうと思っています。

Wellington, NZ　　加藤明世　(2009 年)

インテリアに関心があるので、色々なお宅訪問は楽しい。初めての渡航先ウェリントン(NZ)でディホストの若夫婦のお家を訪問した。ゴージャスではなかったが、家具のセンスが良く掃除も行き届いていた。

広くなかったが毎日外に出ていたくなるような庭だった。そのお宅で見つけたのが、日本の△△全集のハードカバー本を使ったオブジェ。現地で早速英文のハードカバー本を調達し、作った。つい最近まで我が家のリビングを飾っていた。

レスターシャクラブ受入　　小暮江津子　(2019 年)

入会した 2019 年にイギリスのレスターシャクラブの受入をお手伝いをさせていただいてから3年…コロナで渡航・受入はもちろん FF 埼玉の行事もほとんどできませんでした。

入会するきっかけになった、”海外渡航,おもてなし楽しそう…”という思いはコロナで消えかけてしまっていますが、再開を心待ちにしています。

FF に入会し皆さんに出会えたこと本当に嬉しく思っています。

これからもよろしくお願いします。

大人のホームステイ　　神谷千春　(2018 年)

FFの渡航は、ニューカレドニアです。行ってみたい国はたくさんありますが、そのひとつに行くことができました。プログラムも素敵だなぁと思いつつ、なかなか状況も許されず、先延ばしになっていました。環境も整い、一番行きたいこのチャンスを逃したら行けなかったと思います。

渡航に参加して、とても楽しい有意義な時間が過ごせました。現実逃避ができて、とてもリフレッシュできました。

同行したFFの皆さん、ホストファミリーをはじめ現地FFの皆さんのあたたかいおもてなしに本当に楽しく良い日々を過ごせたことを今も思い出します。次はどこの国に行けるかとても楽しみです。

スリランカからの留学生　　川田恵美子　(2018 年)

2021 年 11 月、沼先生のご紹介で、スリランカからの留学生 Thillomi さんのホストをすることに。COVID19 が猛威を振るう中、実際にはワクチン接種後に、草月流生け花、着物着付け、茶道等の日本文化をご紹介する機会が得られました。Thillomi、Udari(堀切さんホスト)、鄭(新井さん host)さんお三方とも郡山邸にお招きいただき、お振袖を着せてもらい大喜び、学業のみならず、日本文化等をいろいろ体験して良い思い出を作って欲しいです。そして帰国後は、日本とスリランカの架け橋となってくれることを願っております。

FF 埼玉と私　　谷池教子　(2019 年)

三好さんのご紹介で FF 埼玉の会員にしていただきました。

早速に「ニューカレドニア」行のお仲間になれました。ホームステイ先はラッキーなことに日本女性のお宅でした。ニューカレドニアはフランス領なので、定住者たちはフランス人のお役所関係のリタイヤ組が多かったようです。皆様から、心からの歓迎をしていただきました。

単なる観光ではない貴重な国際交流の機会をいただき感謝です。

歓喜の祭りに沸くラトビア　小林恵美子（2005年）

ラトビア、リガ club 渡航は 5 年に一度の音楽祭でした。580 団体が誇らしげに行進する姿は圧巻でした。幾度となく近隣の国に侵略され続け 1991 年に旧ソビエトから独立を果たしたのです。祭典は自由と独立の喜びを国民皆で祝っていると感じました。ホストの息子の Aiwaz 君(20 歳)が 1991 と連呼して当時の悲惨な話をしてくれました。両親、祖父母から伝承されているのでしょう。今ウクライナが同じ試練に立たされてます。世界中が一日も早く平穏な日々に戻ってくれる事を心より祈るばかりです。バルト海で夜の 10 時に泳いだ事北欧スタイルの裸で池とサウナ小屋の往復は忘れ得ぬ思い出です。

楽しい感動的な思い出　田中加代（2006 年）

入会後、秋には早速渡航で USA のアラバマ州ハンツビルとケンタッキー州ルイビルの 2 か所です。初めてのステイ先は元 NASA の研究員だったポルトガル人のご主人と奥様はロシア人という国際カップル。

その裕福さはベッドルームが 7 カ所と聞いただけで想像いただけると思います。部屋は天蓋付きのベッドで枕元に高価なチョコレートが置いてあり、「いつでも追加請求をして下さい」といわれました。

橋本聖子さんと同宿でしたが、後にも先にもあんな豪邸にステイさせていただいたことはありませんでした。後半のケンタッキーではごく普通のシングルの女性宅(日本ならかなりのお宅)以後、同程度のお宅になりました。色々な方々との出会いがありましたが楽しい感動的な思い出がよみがえってきます。

3カ国Exchange　郡山育子（2010年）

2010年Oklahoma, USAのNetherland East渡航に埼玉Club 9名参加。Arhem 映画『A Bridge Too Far』の舞台となったZuttphen。インデアンの歴史に耳を傾け、蘭Club会員らの芸術性高さに驚き、懐の深さに感銘。Kroller　Muller Museum訪門時、再びこの上なく幸せを感じた。ここがVan Goghの作品を世界一貯蔵している。三度訪れたい所だ。

ホームステイ後、小林、郡山企画でみんなを巻き添えにしてAmsterdamはBoat Hotel Bruges,Antwerpへちょっといい小洒落たHotelに泊りがけで訪ねた。楽しかったのなんのって。

ベルギー渡航　中島正子（2011年）

FF に入会して、翌年ベルギーのリューバンクラブに渡航。日帰りツアーに参加して行ったブルージュで北のベニスと称される運河や、美しい中世の街並みに魅惑されながら、ホスト始め会員の方達と名物のビールやモヒートを頂きながらの語らいは、まるで夢の世界のよう！

また小学校訪問では 3.11 の大津波で被災された大船渡の方が、心込めて折ってくれた赤い椿の折り紙を小学生達にプレゼント❣

ベルギーでの折紙交流が大変印象的でした。

世界大会の思い出　高堂綾（2011年）

私は、2011年2月に FF 埼玉に入会後、初めての渡航がハンブルクの世界大会でした。
何も知らずの参加ですが、名もない主婦が受けた刺激は、言葉に言い尽くせません。

2013年ニューオリンズ世界大会、2017年マンチェスター40周年大会は一人参加で、入会して6年余りで世界を羽ばたけ、世界の人々とのつながりを肌で感じ、語学の重要性や日本という国を知り直す機会。

兎に角、刺激的な世界が私の人生を豊かにしました。 それから2019年のボルダーの大会では、自己判断力や物事の選択力計画性など少し成長した私になり、人生100年未来を託す子供たちに何かを手渡せる私になるよう、これからも活動を続けていきたいと思います。

思い出に残る渡航　スイス　外山哲代（2011年）

2015 年 6 月、ソロトゥルンクラブとの交流はスイスの美しさを実感する貴重な渡航になった。私のホストは、元小学校教師の Margrit さん。フリーデーに 2 人で行ったルツェルンの日帰り旅行は、船でルツェルンの湖を渡り、ケーブルカーに乗り頂上では、アルプスの山々を眺めながらハイキングを楽しみ、Margrit さんお気に入りの湖に臨む Hotel のカフェでも山々と湖の美しさを堪能した。また 2 人で自転車に乗り、牛たちが草をはむ牧場を通った時の風の心地よさは今でも心に残っている。

日光バスツアー　　長濱公子　(2008年)

FF 埼玉の活動を通して、それまで特に詳しくなかった日光について調べて案内する機会に恵まれました。
参加された皆様は歴史に興味がある方や、神社建築が好きな方、自然歩きが好きだったり、お買い物が楽しみな方など千差万別で、大変な事もありますが、やりがいのある体験でした。懐かしい思い出です。またおもてなし出来る時期が来たら、沢山の方々と出会い、異文化コミュニケーションを取りたいと思います。
早く、安全で平和な日々かやって来ますように。

ホームステイの醍醐味は朝食にあり!!
西村純枝　(2005年)

オレゴンのテッド作パンケーキとコーヒー。ブリストルのジル達は高齢、シリアルとイチゴの朝。スイスのクルトはカウンターで、固め薄バンズとチーズ、果物と引き立てコーヒー。奥方は欠席。食べきれない量でドイツを見せてくれたのはギャビーとマンフレッド。焼き立てのパンを買いに走り魚の燻製やミートボール。ベルギーのダニー、飾り気のない朝陽がご馳走の白アスパラとミモザのサラダ。懐かしさは尽きない。

Norway　ベルゲンでラグンヒルドが用意してくれた懐かしい朝食

タイ　チェンマイ渡航　　橋本斉子　(1996年)

(アジア　パシフィック　フェスティバル)アジアパシフィック(オーストラリア・カナダ・日本・メキシコ・ニュージーランド・アメリカ・タイ)は7ヵ国の参加でした。参加者全員が同じユニフォームを着て行動しました。
心に残っているのは川の女神に捧げる灯篭を地元の高校生と一緒に作り、川に流しに行った事とタイの民族衣装を着て、願いを込めて天燈を夜空に放したのがとても幻想的で忘れられない感動でした。

入会後の印象深い思い出　　長屋正子　(2017年)

2018 年に行ったニュージーランドでのホームステイです。
個人的には 3 度目の訪問でしたが、ニュージーランドの人々の質実剛健さ、心豊かの暮らしぶりに感動し心に残った滞在でした。
大いなる自然に囲まれた住居環境、友人同士の程よい関係性、小学校の教室での子供たちの自然な態度と自由な教育様式。素晴らしく、ニュージーランドへの愛が深まりました。

My old friends, Rita & Ted (リタ&テッド、永年の友人)
西村介延　(2010年)

会社を退職して一週間後に FF に入会し、そのまま最初の渡航で、米国オレゴンへの渡航に出発した。それ以降多くの渡航に参加したが、最初のホストがテッドとリタだった。ハロウィーン・パーティや海岸でのキャンプなど盛りだくさんのプログラムで大いに楽しんだが、夜遅くまで家族の事などを語りあったことが、いちばん思い出される。
それ以降、彼らが我が家でホームスティしたり、我々夫婦も個人的に再度彼らの家を訪問したりと、依然永い友人として付き合いは今でも続いている。

FF で多くの友人ができたが、またとない友人となっている。

FFI会長　　沼純子　(2002年)

2016 年 11 月埼玉クラブ主催で日本大会が行われ、当時 FR(関東ブロック代表)であった私は埼玉滞在中 FFI 会長ジェレミ氏父子のお世話係に。空港との送迎を西村夫妻に、会議中息子のガブリエル君を新井恭代さんにお願いして、大会終了後は他クラブの方たちと川越めぐりを楽しんだ。
祭り会館のお神楽の獅子にかみつかれキャーッ！と怖がった 9 歳のガブリエル君、今は背も伸び美少年になっていることでしょう。

男児二人の父親でもあるジェレミさん、優しく素敵な方でした。
心に残る日本大会の一コマです。

初めての世界大会　　浜敬子（2003年）

2011年8月。意を決してハンブルグ世界大会に参加。各国の会員に囲まれ、FFIを実感。会議、市内観光とあっという間の2日間。その後、他国の会員も一緒にラインヘッセンのクラブに4泊のホームステイ。

移動にはラインクルーズも含まれ、風に吹かれながら極上の景色を味わえた。田舎町のクラブではワイナリー見学や教会でのクラシックコンサートで至福の時間を過ごす。いつでもどこでもドイツの豊かさを実感。FFならではの貴重な体験に感謝！

ボブ＆アレン　　長谷川朝子（1993年）

シアトルの彼らの家からカナダに向かう途中、トラックが積荷の塗料を撒き散らしたらしく、延々と菜の花色の道が続いていた。それは次の日の新聞の一面を飾り、[まさに昨日、この道をドライブしたね。]と私たちを二重に楽しまてくれた。あれから二十数年、ボブは亡くなり、ここ数年アレンの引越先に出したクリスマスカードが、宛先不明で戻ってくる。二人の優しい温かい笑顔は、いつまでも FF の心として私の胸の中に残っている。

2015年6月　ノルウェー・ベルゲンへの旅

濱田聖子（2012年）

この時の思い出は美しいフィヨルドの航海よりも、ホストのウーラグのことです。参加者が多くて最初はホテルになる予定でしたが、何とか１人暮らしのウーラグが三人も引き受けてくれました。滞在していた間、ほとんどの行事についてきてくれ、疲れるんじゃないかと心配になり、一日休めるように自分たちでバスで市内に行こうとしても、結局送り迎えをしてくれ、買いたかった鍋敷きとシェイカーを私たちが出かけている間に探してプレゼントしてくれました。出発がとても早く、あまり挨拶もできなかったと残念に思い空港で出発を待っている時に、ウーラグの姿を見た時、思わず涙がこぼれました。自分もホストをするときにいつも彼女のようでありたいと思います。

ハンブルク世界大会　　原田史（2009年）

2011 年、東日本大震災が起こり、全ての交流はキャンセルに。唯一の可能性が世界大会参加でした。娘とハンブルクに赴き、4 日間の大会、post conference のホームステイを終えて、ロマンティック街道、ノイシュバンシュタイン城を見て、最後の滞在先ミュンヘンに向かう列車の中。終着駅と思って、娘が降りて私の目の前でドアがぴしゃり。それからの 2 時間ほどはボランティアガイドに助けられたり、2 箇所のインフォメーションセンターで相談したりして、やっと娘にメールで連絡がつき、私の待つ駅前のホテルで再会するまで、どきどきの収まらない時間でした。忘れがたい思い出です。

向学心のあるアンバサダーたち

百名良子（2006年*初*入会、2019年再入会）

2019年11月、イギリス・レスタャーからのアンバサダーをお迎えし、私は日光へ同行しました。

皆さんとても向学心があり歴史的背景など、大変興味を持って見学されました。また奥社への階段は207段もあるのでしたが、私のチームは体調は万全でない方もいる中、全員登り切ったのには驚きました。

皆さんとても気さくで、境内で偶然あった地元高校生の英語でのインタビューに快く答えている姿は今も記憶に残っています。

Free Day ディナーホストお手伝い

浜島なつみ（2015年）

2019年3月27日埼玉は桜が満開。FFSメンバーの大好きな方々と共にドイツVarel(ファーレル)から渡航された13名をお迎えした。

Varelも海に隣接する街、江ノ島観光からの移動後にて交通渋滞も経験されて少々お疲れのご様子でメンバーのお宅まで。こちらは朝からお料理教室みたいにワイワイと和を感じて貰えるお料理に、食べ易そうなものなど皆で色々考えた。卓を囲んでワインとピアノ伴奏で歌もあり、とても思い出深い夜となった。

台中クラブの秀珍さん　　増田信枝 （1996 年）

2016年3月の渡航でホストだった秀珍さんから「息子の結婚式に来ませんか」とメールが届いたのは6月。9月に高堂さん・牧野内さんと3人で再び秀珍さん宅へ。飾り立てた黒塗りのベンツを連ねて爆竹を鳴らしながら花嫁を迎えに行く親族に加わり、大興奮の内に花嫁宅に到着。若い二人が両親の前に跪き、これまでのお礼とこれからの決意を伝える場に立ち会い、年長者を敬い大切にする文化に改めて感動。盛大な披露宴では台中クラブの皆さんと再会。その後も、娘達が名古屋マラソンや東京マラソン参加の為に来日した際に会う等の交流が続いている。

好奇心旺盛のメンバーと　　堀切京子 （2007 年）

自分でも気がつかないほど、いつの間にか私は年月だけのベテラン古会員になっていた。

メンバーの好奇心旺盛なこと、ボランティア精神の溢れていることに驚きだった。学校のPTA役員選出時等は、毎年引き受け手が無く時間のかかるのが通例である。だが我がFF埼玉クラブではまるで違っていた。指名されたら誰もが拒否することなく快諾してくれたのには、私にはただただ驚きであった。使命感に溢れた人たちの集まりだと感激したことを今でも鮮明に覚えている。

ホスピタリティに感服！　　道江幸江（2015 年）

入会してすぐに役員になったものですから会議と書類実務に追われる印象しかありません。会員の方々の講演会、料理教室、品川宿から大使館めぐり、朝日新聞社見学など楽しく学べ FF でなかったら体験出来なかったかも知れません。先の日光も各駅停車でゆっくり旅をする、特急でなくても日光に行けると認識を新たにしてくれた良い企画でした。皆様のアイディアや行動力、そして素晴らしい！ホスピタリティに感服です。

ウクライナ　　丸山由喜雄 （2017年）

FF埼玉は、2020年にウクライナへの渡航を予定していました。コロナにより2023年に延期になりましたが楽しみにしていました。しかし2022年2月24日、ロシア侵攻により中止になりました。当初、関係する動画を皆さんにいくつか紹介しました。戦争の開始後たくさんのテレビ放送などがあり、つらい動画もありますが毎日のように動画を紹介しています。早く戦争が終了し、平和が来ることを願っています。いつか平和なウクライナを訪問し、聖ソフィア大聖堂などを見たいと思っています。

アメリカ渡航の思い出　　牧野内豊子 （1993 年）

FF 埼玉に入会して 29 年になりました。何回もの渡航受け入れを経験しましたが、一番記憶に残っているのはカリフォルニアへの渡航でしょうか。

2001 年の同時多発テロの影響で延期になっていた渡航でした。ドイツと埼玉のクラブの同時に受け入れでした。ステイ先ではドイツ人夫妻と私の 3 人がゲストで、最初はどうなるかと思いましたが、結果は和気藹々と過ごせて楽しかったです。

庭でのパーティーの時満月が綺麗で今も満月を観るとその時を思い出します。後にドイツの世界大会で再会出来たのも嬉しい事でした。

視野を広げた渡航　　宮城利枝子 （2007 年）

私が入会してから 4 回の渡航交流を経験しました。

2009 年 10 月に NZ が初渡航でした。その時の加藤さんと私のホストが joy でした。

家庭科の教師だった彼女はとても手厚く私達をおもてなししてくれました。その後、2011 年 Sydney で二人で個人旅行しました。またその数年後、二人で横浜を旅行しました。2018 年 NZ 渡航時には尋ねてくれ、一晩楽しく過ごし忘れられない思い出です。

再会を願って　　外山竹治　(2011 年)

一週間近く滞在されたアンバサダーがお発ちになる時はいつもおなごり惜しい。そこで東京駅までお見送りすることが多い。大宮駅から東京駅まで、京浜東北線で約50分、埼玉での滞在を終え、リラックスしたアンバサダーのさりげない一言は印象深い。車窓をながめながら、「埼玉県は自然が少ないですね」という感想を聞くと、もしできれば、次の機会は、県内の自然を満喫していただきたいという気持ちが強く湧く。 新幹線ホームでは、再会できますようにとの思いが、お互いに窓越しに伝わってくる。

タイ北部チェンマイ 特別な 2011 年秋

三好紀子　(2011 年)

当時の沼会長から「空きがありますよ。リタイアしたのだからいかが」とお誘いを受けたのが、チェンマイでの Lantern Festival を含む旅でした。FFは何かを知らない私は驚きの1週間を体験しました。チェンマイ ゴルフ場併設のホテルに到着。タイの楽なウェアの試着をした時、外に広がる草原と陽ざしは日本の避暑地の夏を思わせ、私は思わず「夏をもう一度味わうことができますね！」東日本大震災で傷ついた心が外に向かって開いた瞬間でした。

笑顔の台湾旅行　　道江邦利　(2015 年)

FF に入会するきっかけになったのが、初めての台湾(台中市)との交流でした。6年前の事です。FF 台中の盛大な歓迎会での踊り、食事など大いに楽しみました。 若い世代の黄(ファン)さん一家(4名)にお世話になりました。私たちの名前入りウェルカムボードで歓迎され、毎日の朝食は CD を流しながら、奥さんの優しい味の手作り料理を頂きました。新築の家で観葉植物をこの日の為に準備したとか。一家と古都鹿港(ルーガン)にも行ったことも。3年前に黄さん一家が来日の際には、狭い我が家に1泊、川越観光して、翌日軽井沢に行ったことなどいい思い出です。

楽しく学べた NZ 英語研修ツアー

山本久美子　(2010 年)

2015 年9月、FF NZ のカプチコースト、マヌワツ、ウェリントンに5日ずつ滞在。「あなた達が楽しめるように何でもしてあげますよ」と、どこのクラブでも最高のおもてなしを受けました。
美しい風景、美味しい食事、清潔な環境、知的でフレンドリーな人々とのお喋り。
そしてお約束通り「楽しく英語が学べる」プログラムが提供され、とても有意義な旅でした。日本の他クラブの方々と愉しい時間を共に過ごせた事も良い思い出です。

ファーレル渡航　　村松江伊子　(2014 年)

これまでの渡航は 3 回。それぞれがキラリと輝く想い出として心に残っています。中でも入会して初めての北ドイツファーレル渡航はとても印象深いものでした。ホスト宅の美しいお庭や洗練されたインテリアは、まるで美術館の様…。それ以上に感銘を受けたのは、ホストお二人の日々の会話や談話から感じられる家族愛やその絆の深さでした。時が穏やかに流れ、あたかも映画を観ているかの様でした。

Short messages

八木正毅さん (2017 年)
西村介延さんの紹介で入会。アメリカでの勤務後に帰国。趣味は卓球・ゴルフ・盆栽。特に盆栽は知識豊富で、アンバサダーへの英語での解説が期待されています。

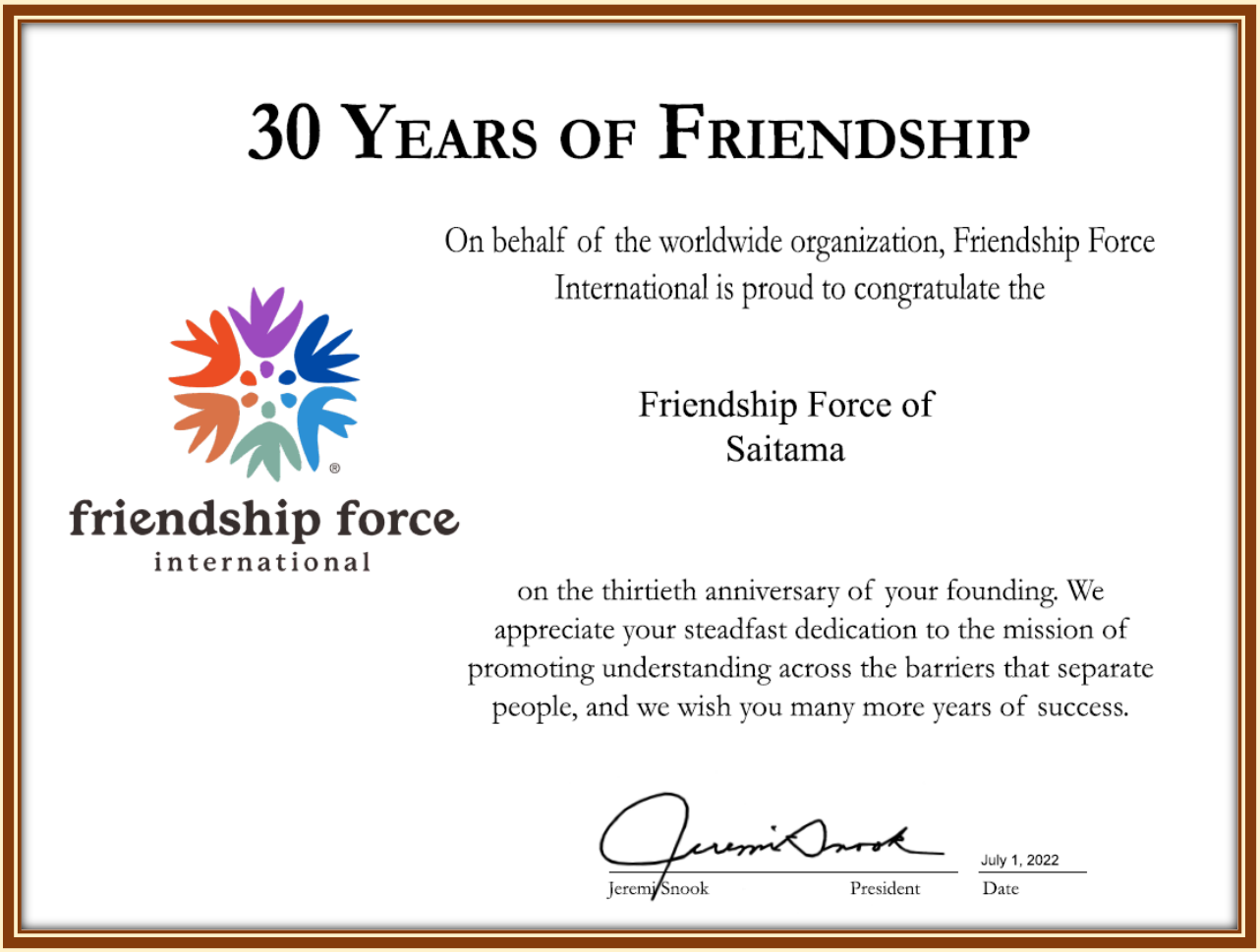
渡辺啓太郎さん(2015 年)
World Friendship Day の活発な雰囲気と、トロントクラブのアンバサダーと共に見た雨露をまとった盆栽の美しさが心に残ります。(自己紹介文より)

高橋京子さん(2011 年)
埼玉クラブの理事や HC で活躍。プロのオペラ歌手として渡航の際には美声を披露して喜ばれました。

臼倉恵美子さん (2016 年)
3 回のピースボート乗船経験があり、旅の熟練者。世界一周体験談にあこがれを持つ会員も。

歴代会長一覧

初代会長	佐藤　ゆきえ	1992年～2002年	2000年第14回FF日本大会開催 2002年埼玉クラブ創立10周年記念事業開催
第二代会長	堀内美紀子	2003年～2006年	
第三代会長	沼　純子	2007年～2012年	FR（Field　Representative）5年間 2012年埼玉クラブ創立20周年記念事業開催
第四代会長	原田　史	2013年～2020年	2016年第28回FF日本大会開催
第五代会長	三好　紀子	2021年～	2022年埼玉クラブ創立30周年記念事業開催



30 YEARS OF FRIENDSHIP

On behalf of the worldwide organization, Friendship Force International is proud to congratulate the

Friendship Force of Saitama

friendship force international

on the thirtieth anniversary of your founding. We appreciate your steadfast dedication to the mission of promoting understanding across the barriers that separate people, and we wish you many more years of success.

Jeremi Snook　President　July 1, 2022 Date

編集後記

埼玉クラブ創立 30 周年記念事業として記念誌を発行することが決まり、広報部員が中心となって作成することになりました。内容については 20 周年の記念誌を参考に、20 周年後の 10 年間の渡航・受入れの記録をメインに、会員皆さんの FF の思い出などを「それぞれの Memories」として書いていただきました。どの方も FF の活動から得たもの、また世界の方との交流を楽しんでいる様子が伺え、これぞ FF！の記念特集になりました。

10 周年記念誌には受入れの記録として、初代会長の佐藤ゆきえさんが「お互いのクラブが専門的なことを通じてより興味深い交流を図る」をテーマに受入れをし、大宮が世界に誇る盆栽を通して、盆栽関係者や地域の方との交流を記しています。1997 年にはすでに「テーマのある交流」が行われていました。また、創立後まもなく 1993 年には当時の FFI 名誉総裁であった Rosalynn Carter 夫人から激励文をいただいていることに、埼玉クラブの歴史を感じます。

昨今、諸事情により FF の活動も制限されておりますが、2023 年からは、また、FF の素晴らしさを体験できる機会が得られると期待しています。今後も世界の会員たちとのコミュニケーションを楽しみましょう。

この記念誌が会員の皆様にとって交流のヒント、活動の源となって今後の活動の一助になれば幸いです。

最後に原稿をお寄せいただいた会員皆様に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

発行者	ザ・フレンドシップ・フォース・オブ・埼玉		
	30 周年記念事業実行委員会		
発行日	2022 年 11 月 5 日		
担当者	浜　敬子	堀切京子	原田　史
	田中加代	石橋博之	浜島なつみ
	稲垣朋彦	丸山由喜雄	新井恭代

friendship force
SAITAMA